

活性化情報  
中小企業  
かごしま

2015

第725号

11

今月の特集

特集 平成26年度 全国先進組合事例



鹿児島県中小企業団体中央会



### 1 特集

#### 平成 26 年度全国先進組合事例

#### 36 組合インタビュー

##### かのや緑化協同組合

理事長 宮里 郁男 氏

#### 37 Never Give Up! 元気を出そう! がんばれ中小企業

##### 楽しくなければ旅行じゃない!

##### かごしまの魅力を世界に発信する

アローツーリスト株式会社 代表取締役 中間 幹夫 氏

#### 41 中央会の動き

「組合制度が果たしてきた役割と今後の展望」をテーマに講習会開催

「日本一小さい航空会社 倒産寸前からの再生物語」をテーマに講習会開催

「鹿児島県産農作物を使用したギフト用和菓子づくり」をテーマに研究会開催

「空想科学的印刷の未来」をテーマに研究会開催

祝「鹿児島県中小企業団体中央会青年部会 創立 40 周年記念式典」開催

#### 44 教えてぐりぶー! 組合運営

(同一組合員企業内の取締役による理事の交替手続きについて)

#### 45 インフォメーション (中央会補助金活用のご案内)

#### 49 業界情報 (平成 27 年 9 月情報連絡員報告)

#### 51 倒産概況 (平成 27 年 10 月鹿児島県内企業倒産概況)

#### 53 中央会関連主要行事予定

# 平成 26 年度全国先進組合事例

全国中小企業団体中央会及び都道府県中小企業団体中央会では、さまざまな事業活動を展開している中小企業組合の事例を収集し、毎年テーマごとに事例集を作成しています。

平成 26 年度は、「地域連携による新たな事業展開」「成長分野への挑戦」「特色ある組合のホームページ活用」「女性の登用（活躍）による事業・活動の展開」の 4 つのテーマで全国各地の組合事例を収集しました。

本特集では、収集した先進事例の中から抜粋してご紹介します。

## 【テーマ設定の趣旨】

### 1. 地域連携による新たな事業展開

地震、台風、豪雨、噴火等の災害は、地域の中小企業に生産設備の毀損をはじめ、甚大な影響を与える。大企業に比して経営資源の脆弱な中小企業にとって、他の組織等との連携により、それを補完する必要性が増している。また、近年は多様な中小企業への支援策が打ち出されており「官民協調」で経済及び地域再生を支援する動きが加速している。

そこで、組合が公的機関や地域組織と連携・協力体制を築くことで、新たなビジネスモデルの構築と組合事業の新展開を図り、地域活性化に資する取り組みを行っている事例を紹介する。

事例	内 容
01	組合間連携等による 富岡製糸場お土産品試作開発
02	防災協定具現化のための調査事業の実施及び改善提案
03	「千葉海苔消費日本一」を契機に海苔需要の拡大を図る
04	官公需適格組合証明を取得して受注機会の拡大を図る
05	「焼津魚河岸シャツ」でまちおこしを
06	世界初は、世界一
07	「認知度向上」を共通目標に多様な地域連携を展開
08	伝統産業「三木金物」を地域連携で全国へPR
09	卸団地内従業員、地域の防災安全確保のため防災ハンドブック策定
10	賑わい創出のため、オープンカフェの運営イメージを探る
11	三方よしの『あきんど精神』、行政と連携し社会に貢献
12	大災害時の食糧の安定供給を地域・全国組織で展開
13	地元産こんにゃくの伝統的製法の継承と新商品開発による地域活性化
14	海に係る関係機関と連携し、海を大切にす事業を展開

### 2. 成長分野への挑戦

政府の「日本再興戦略」において、「環境・エネルギー」「健康・医療」「航空・宇宙」等が成長分野として、今後市場の拡大が期待される。

そこで、組合事業としてこれらの成長分野に取り組み、特色ある活動を行い、組合組織の活性化が図られている事例を紹介する。

事例	内 容
15	未利用材のバイオマス化で新たな収益源と環境への貢献
16	ものづくりの街・浜松に新風を巻き起こす医療機器開発
17	安心安全の食品循環型リサイクルシステムの確立
18	太陽光発電システム用金具、ブラケットの実用新案登録で飛躍的に受注向上
19	保有技術連携による医療福祉機器の開発
20	組合の遊休地を活用し、太陽光発電に取り組む
21	淡口醸造アミノ酸およびアミノ酸酢づくりへの挑戦！
22	木・枝をチップ化し、黒土と混ぜて新しい客土を開発

### 3. 特色ある組合のホームページ活用

IT化は様々な事業展開に不可欠なものになっているが、最もベーシックかつ広範に経営に取り入れられているのがホームページの利活用である。SNS やスマートフォンの普及も相まって、各種ホームページ等が急増している一方、提供される情報の質と量によって、それらの運用にも大きな差が出ているのが実情である。

そこで、組合の事業運営等において、ホームページの利活用を戦略的に行うことで成功を納めている事例を紹介する。

事例	内 容
23	戸建住宅塗装改修工事の安心と信頼のシステム化を実現
24	業務効率化のため中古農機情報提供システムを開発
25	ローコストで運用する即日予約システムで、小規模旅館をPR
26	組合員を支えるホームページを目指して
27	組合HP「業務効率向上」への入り口はここから！
28	教育研修教材、業界周知用ツール等様々な場面で活用中
29	ブログ型HPとSNSの連携でアクセス数大幅アップ

### 4. 女性の登用（活躍）による事業・活動の展開

近年は、様々な業種・業態において女性の視点や感性・感覚を企業経営に取り入れ、新規顧客の発掘を図るなど、女性を積極的に登用することで、旧来の経営マインドからの脱却と組織と事業活動の活性化を図る事例が増加している。

そこで、女性の登用による事業・活動に積極的に取り組み、組合事業や組織改革による活性化を図っている事例を紹介する。

事例	内 容
30	女性事務局長を登用し、業界初となる女性部を設立
31	近江上布の市場開拓を目指した女性視点の産地ショッブ
32	子育て世代女性の地域振興と商店街活性化活動の融合
33	「女性ならでは」の強みでワンランク上の組合に！

**組合間連携等による富岡製糸場お土産品試作開発**

**富岡市仲町事業協同組合**

群馬県富岡市富岡 1025-1

TEL : 0274-63-6703 FAX : 0274-63-6703

URL [http:// 富岡製糸場.gunma.jp](http://富岡製糸場.gunma.jp)

組合間連携、地元高校生、大学生と連携し、世界文化遺産の富岡製糸場をモチーフにした土産品を試作開発

**【背景と目的】**

平成 19 年 1 月、富岡製糸場と絹産業遺産群（平成 26 年 6 月に世界文化遺産登録）がユネスコ世界遺産暫定リストに追加記載されたことを機に、富岡市が富岡製糸場近隣に駐車場、仲町まちなか交流館（観光案内及びお土産品販売所）を整備した。これまで任意組織「仲町協和会」として商店街活動を行ってきたが、富岡市より駐車場、仲町まちなか交流館の管理委託を受けるため、平成 22 年 3 月富岡市仲町事業協同組合を設立した。

平成 25 年「地域住民ニーズ調査」を実施したところ、富岡製糸場の土産品について、地域住民及び観光客等から「富岡地域の特産品及び名物の土産物品を購入したいが、適当なものがない。」という声が多数寄せられた。そこで、県中央会の事業（組合間連携試作開発支援事業）を活用し、富岡地域の特産品及び名物の土産品試作開発に取り組むこととなった。

**【事業・活動の内容】**

県中央会のコーディネートにより、桐生刺繍商工業協同組合、群馬県製麺工業協同組合、高崎食品工業団地協同組合、富岡市、富岡商工会議所、地元高校（富岡東高等学校、富岡実業高等学校）、大学（高崎商科大学）等と連携し、専門家（中小企業診断士）の支援のもと、富岡製糸場の土産品試作開発に取り組んだ。



物品部会と食品部会の協議の様子

**【成果】**

富岡製糸場の土産品として「おっ切り込みご膳」、富岡市のマスコット「お富ちゃん」の刺しゅう入り「ペットボトルホルダー」、お富ちゃんや蚕、富岡製糸場の絵柄が付いた「シルク製ブレスレット」など計 7 種類が試作開発された。開発された土産品が商品として販売されることで、地域経済活性化に貢献するだけでなく、製造に携わる連携組合相互への経済効果が期待できる。



開発した 3 種類のお土産品

なお、成功要因としては富岡市仲町事業協同組合理事長のリーダーシップと組合員の協力体制、製麺、食品や繊維関連組合及び地元高校、大学との連携、県中央会のコーディネートの 3 点があげられる。

## 防災協定具現化のための調査事業の実施及び改善提案

### 協同組合さいたまエルピーガス保安センター

埼玉県さいたま市北区本郷町 1544

TEL : 048-667-4666 FAX : 048-667-4677

URL —

災害時に避難所の LP ガス供給が円滑に機能するか検証するため、配管状況等の調査を実施、改善策として LP ガスの常備設置を市当局に提案することで、共同受注の新たな需要開拓を図る。

#### 【背景と目的】

保安調査業務を主たる事業とする当組合は、平成 26 年 2 月に「官公需適格組合」の証明を取得、公共事業の受注体制を整備した。それに先駆け、当組合では事務局を兼務する埼玉県 LP ガス保安協会大宮支部が同浦和支部と連名で、さいたま市と災害時の LP ガスの提供に関する防災協定を締結した。同協定が災害等の非常時に混乱状態の中でも実質的に機能するよう、当組合が中心となって、避難所（小中学校）の現地調査・診断を行うこととした。

#### 【事業・活動の内容】

当組合は、さいたま市が災害時避難所になっている小中学校を活用し（通常は都市ガス利用だが、緊急時には LP ガスを使用できる設備設置校）、市内全域をカバーするため、LP ガス協会浦和支部を兼務する浦和与野液化石油瓦斯保安事業協同組合と連携した。実施にあたっては、県中央会の「組合間連携促進事業」を活用、さいたま市教育委員会の理解も得て（同事務局学校施設課より 3 人が調査委員会に参加）、市内 54 校の給食ガス設備を調査した。



緊急時の LP ガス供給設備

調査結果によると、災害時に速やかに使用できる設備は皆無であり、防災協定の実効性が確保されていないことが判明。さいたま市当局へも調査結果を報告した。また今後、改善策として「分散自立型エネルギー」で評価の高い LP ガスボンベの常備設置することを提案した。今後は当組合でも共同受注の新たな需要開拓、LP ガスの公共施設への納入・維持管理を目指していく。

#### 【成果】

本改善提案が実現すれば、防災協定が円滑かつ実質的に機能することが期待できるほか、結果的に、避難所への LP ガスの安定供給等、地域の LP ガス業者として、地域社会に貢献できる。また、共同受注事業の新たな柱としての道が拓け、組合事業の活性化、組合員の経営力向上、ひいては地域経済の振興に寄与することができる。

なお、本取組みは「防災協定」実現性の観点からも参考となる事例であり、地域内関連組合や同業種組合による「組合間連携」の新たなモデルとして、他の業界・地域への波及効果も期待できる。

<b>「千葉海苔消費日本一」を契機に海苔需要の拡大を図る</b>	
<b>千葉県海苔問屋協同組合</b>	千葉県千葉市中央区南町 3-8-10
	TEL : 043-264-6060 FAX : 043-268-0353
	URL <a href="http://www.chuokai-chiba.or.jp/chibanori">http://www.chuokai-chiba.or.jp/chibanori</a>

当組合による「千葉のりロール」の開発等、一連の海苔需要拡大の動きが千葉市、千葉県と連携することで軌道に乗り、千葉海苔消費 3 年連続日本一を実現

**【背景と目的】**

千葉の海苔は昔から「上総のり」として珍重され、色や香りが良い。海に近い千葉県では海苔は身近な存在で、お祝いには太巻き寿司を作るように、その食文化が現在まで続いている。総務省による 2011 年の全国家計調査において、千葉市の干し海苔消費額が日本一になり、2013 年にかけて 3 年連続日本一を達成した。このため、当組合では、その下部組織である千葉海苔消費日本一実行委員会が中心となり、地域を代表する食文化として海苔を認知してもらうことを目的に「千葉のりロール」の開発等の活動を始めた。

**【事業・活動の内容】**

具体的な事業活動として、①分かりやすく海苔を PR できるシンボリックな商品として「千葉のりロール」を創作、②組合事務所で「海苔屋の朝市」を開催、③イメージキャラクター「のりんちゃん」を決定、④千葉海苔 3 年連続日本一「ありがとうキャンペーン」の実施、等を行った。また、千葉市との連携では、市主催のイベントに「千葉のりロール」を出品するたびに完売となる等、その人気は定着しつつあり、町おこしグルメとしての期待感あふれる商品に育っている。



創作商品「千葉のりロール」

さらに、当組合では千葉県と連携することで、県下の小学校に出向き海苔の PR、試食などを行うなど食育教育にも力を入れている。こうした市及び県と連携することで、特産品としての海苔需要を拡大させ、地域を巻き込んだ広がりのある活動となっている。

**【成果】**

「千葉海苔消費日本一」という事実が組合全体の結束力を高め、将来に向けた明るい展望を抱かせるものとなった。

「千葉のりロール」の開発においても、消費者の目線で新たな商品を作り出そうとする中で、マーケティング手法の有効性を実感することができた。また、消費ニーズをしっかりと把握しようとする試みは、組合及び組合員の経営に資するところが大きいものがあった。こうした一連の動き



千葉のりロール販売の様子

が千葉市、千葉県と連携することで 3 年連続海苔消費日本一を実現させる原動力になり、4 年連続海苔消費日本一を目指し、千葉県民が誇れる贈答品としてその認知度を高めつつある。

## 官公需適格組合証明を取得して受注機会の拡大を図る

小田原市土木建設協同組合

神奈川県小田原市東町 5-2-59

TEL : 0465-35-6175 FAX : 0465-35-9906

URL <http://www.odawara-dk.com/>

小田原市との業務協定による災害応急復旧工事後の本格復旧工事を共同受注するため、官公需適格組合証明を取得して受注機会の拡大を図る。

### 【背景と目的】

当組合は、小田原市の呼びかけで、市の防災訓練などに積極的に参加してきたが、災害時に市民生活をいち早く復旧させるためには、一社単位での取組みでは保有機材などにも限界があった。そこで、当組合は、災害時に市民を守り、応急復旧するのは、地元の建設業界の力が大きいと考え、地元の土木・建設業の共同体としてのパワーを活かして、災害時の応急復旧に対応することにした。具体的には、平成 8 年に小田原市と組合が「災害応急復旧工事等に関する業務協定」を結んで、市の要請があれば、最適の機材、人材を保有する組合員に出動要請をして、応急復旧に対応することとした。このため組合では、協定締結時から、組合員の保有設備、機材、人員を毎年調べ、災害対策資料として市に提供するとともに、災害時の対応に備えている。

### 【事業・活動の内容】

当組合では、平成 8 年に小田原市と締結した「災害応急復旧工事等に関する業務協定」に基づいて、災害時に小田原市からの要請があると、組合事務所に災害対策本部を設置し、理事長を始め役員、災害対策委員などが参集、24 時間体制で詰めて、災害復旧に対応する体制を採っている。これまでに、台風、大雪、火災などの災害時に、33 回本部を設置し、実際に出動して、応急復旧に当たったのが 25 回あった。また、市内に防災倉庫を 5 箇所設置し、災害復旧に必要な設備、機材などを準備している。この防災倉庫の備品や消耗品については、組合では毎年点検しており、被災地において組合が依頼した作業員が瞬時に使用できるよう、備えている。



防災訓練の様子

### 【成果】

共同受注がメイン事業の当組合では、土木・建設業の共同体である特色を活かし、小田原城跡の石垣復元工事などに実績をあげてきたが、災害時の応急復旧工事は小規模な臨時的な仕事であり、単なる社会貢献では組合員が納得しなくなる懸念があった。そこで、当組合では、随意契約の応急復旧工事から引き続いて、本格復旧工事の確保に結びつく仕組みとして、特定建設業の資格に加えて、平成 19 年に官公需適格組合の証明を取得し、共同受注事業の新たな展開、拡大に努めており、組合員の経営に貢献している。



## 「焼津魚河岸シャツ」でまちおこしを

### 焼津魚河岸シャツ協同組合

静岡県焼津市栄町 3-1-13

TEL : 054-627-6415 FAX : -

URL <https://www.facebook.com/yaizuuogashi>

魚河岸シャツの認定ラベル及び認定書の発行により類似品・粗悪品との差別化を行い、認定基準の遵守によりブランド力の維持を図っている。また、共同宣伝事業により魚河岸シャツの知名度向上に努めている。魚河岸シャツの地域ブランド力を活かし、焼津の地域活性化に貢献している。

#### 【背景と目的】

魚河岸シャツは、手ぬぐい生地で作った肌じゅばんとして焼津の水産業関係者が着用していたのが始まり。その後、通気性の良さや洗濯のしやすさなどから市民にも認知度が高まり普段着として着用されるようになった。こうした人気のおかげで類似品（特に粗悪品）が出回るようになり、ブランドを守るためにも何らかの対策が必要になった。そこで、焼津市内の小売業者が集結し、組合を設立した。

#### 【事業・活動の内容】

まず、「焼津魚河岸シャツ」という商標権の専用使用権を確保した。そして、魚河岸シャツの定義を定め、組合員の商品には認定証とタグをつけて販売。魚河岸シャツのブランドを守るべく活動している。一方で購買層を拓くべく、大学生にデザインを考案してもらう活動をすすめ、ファッション性を重視することで特に女性に着てもらえる工夫をしている。

さらに、組合から大学や地域の小学校に出向いて講演（レクチャー）を行うことで若年層にも認知してもらえるよう購買層のすそ野を拓ける活動も行っている。

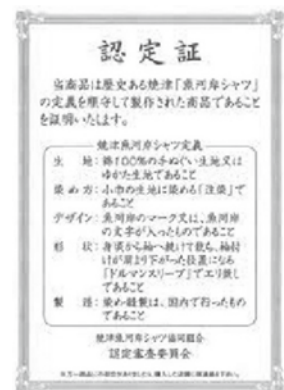
#### 【成果】

組合を設立したことにより、商標権の専用使用権取得や地域ブランドの維持が図られ、個々の組合員の店舗で販売する商品のブランド価値を上げることができた。また、当初はほんの数軒しか扱わなかったものが、組合設立により多くの店舗で扱うようになり、「焼津に魚河岸シャツあり」といったことを焼津内外に知らしめることができた。

また並行して、特に行政（焼津市）や金融機関（焼津信用金庫）でクールビズ活動の一環として職員に着てもらったことで、市民にも広く認知されるようになった。これを契機として、広く市民レベルにも日常の生活シーンの中で着てもらえるようになり、市民権を得た。



焼津魚河岸シャツ



組合発行の認定証

## 世界初は、世界一

### 協同組合アンジョウハーツ

愛知県安城市桜町 16-1

TEL : 0566-76-5175 FAX : 0566-76-4322

URL <http://www.anjohearts.jp/>

## 自動車産業のみに頼らない新たな産業の創出 地域資源「ユメプラスチック」による工業製品開発

### 【背景と目的】

安城市は、自動車部品製造業を基幹産業としているため、他の地域よりも為替等の不確定要素の影響を受けやすい地域である。自動車産業の将来性に対する危機感から、新たな産業の創出が必要不可欠という思いを持った異業種の中小企業により、平成 23 年 3 月に任意組合「アンジョウハーツプロジェクト」が生まれ、平成 25 年 1 月に事業協同組合を設立した。

### 【事業・活動の内容】

地域の協力を得てペットボトルキャップを回収し、福祉施設において選別、これを新たな地域資源「ユメプラスチック」と名付け、新商品の原材料としている。商品開発では、①世の中に存在しない製品もしくは事業である、②判断基準は売れるか売れないかではなく、心に響いてくるものかどうか、③100 円均一店に並ぶ製品ではないこと、をルールとしている。メンバーは月 2 回の夜間に開催する定例会に出席し、新商品の構想について議論を重ねている。



きゃぷらも

製造面では、プラスチック原料の再加工、射出成形、金型製造技術、販売面では、パンフレット作成や Web 制作技術といった、自社の持つ強みをそれぞれ持ち寄って、役割分担を行っている。

### 【成果】

現在までに、「ハイブリットロケット燃料」「キャップアートパネル」「きゃぷらも」を開発、販売した。「キャップアートパネル」に至っては、発売後 4 年度で累計 18 万枚（平成 26 年 12 月末）を突破し、市場から高く評価されている。

プロジェクトが目指すものは、メンバー自身の強みを活かした新たな取組みが世界初のものを創り、新たなヒト・モノ・カネが自然に集まる体制を構築することである。

その結果、比較対照されるものがないために、価格競争からも脱却できており、今では大手メーカー各社からの引き合いが来ている。参画メンバーは、世界初の「新商品」に開発から販売まで関わったことで、自分たち中小企業でも「ものづくり」ができるのだという自信を持った。

また同時に、安城市の新たな地域産業資源「ユメプラスチック」を上手に活用すれば、「地域」は儲けることができることに気が付いた。今後は、プロジェクトに関わったことが、メンバー企業の本業の成果に繋がることを期待している。

## 「認知度向上」を共通目標に多様な地域連携を展開

### おごと温泉旅館協同組合

滋賀県大津市雄琴 6-5-1

TEL : 077-578-1650 FAX : 077-578-1650

URL <http://www.ogotoonsen.com/>

多様な観光資源や高い効能を誇る温泉であるが、他の温泉地と比べ認知度が低いという潜在的問題に対応するため、「認知度向上」を共通目標に多様な地域連携活動を展開

#### 【背景と目的】

おごと温泉は、旅館の規模・コンセプトのバリエーションが豊富で多様な年齢層のお客様に利用されているが、来客エリアは関西～中部周辺までで関西の他の温泉地と比べ認知度が高くなく「認知度向上」が組合の重要課題となっている。長い歴史のある当組合の各旅館に10数年前から若い後継者が戻ってきたことを受け、元理事長が中心となり月例の勉強会「雄琴青経塾」を平成10年に立ち上げ、ここから生まれた有志の活動が発展して、さまざまな事業が展開されるようになった。

#### 【事業・活動の内容】

地域連携を活用し「おごと温泉」の知名度を向上させる活動は、JR京都駅大階段での温泉地PRから始まった。そして、組合として申請した地域ブランド（地域団体商標）が認定を受けたことを契機に、平成20年にJR旧雄琴駅が「おごと温泉」駅に改称され、おごと温泉の情報発信強化につながった。また、びわこ成蹊スポーツ大学との連携により、地域資源を活用し「美浴・美運・美食」をテーマとした研究プログラム「おごとヘルス・ツーリズム」に取り組んだ。この取り組みは、平成21年の「地域資源活用事業」の認定を受けており、効果的な入浴方法やストレッチ指導を経て血圧や体脂肪を測定するプログラム、比叡山参道等でのウォーキングを行うプログラム、地産地消・郷土に根付いた調理法による健康レシピのプログラムが作成された。その他にも、組合が大津市おごと温泉観光公園の指定管理者として公園運営を実施しており、屋根付き足湯やカフェ「COTOCOTOCOTTON」の運営、土産物製品の販売等を行っているほか、5月10日を「おごとの日」として、地元野菜の販売などのイベントを毎年開催している。



ノルディックウォーキングで健康増進

#### 【成果】

これらの取り組みは「おごと温泉の認知度向上」を目標としており、認知度向上を具現化する事業推進体制や組合員間のコミュニケーションを基盤のもと、長期的な取り組みとして実施されている。現在では、これまでの活動が多様な事業に進化・展開しており、比叡山やおごと港など地域資源を活用し「美肌・美食・美観」を堪能できる温泉地をめざした「おごと温泉ハブ・ツーリズム」が推進されているほか、「美運」を更に発展させた「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」等も実施されており、さらなる展開が期待される。

## 伝統産業「三木金物」を地域連携で全国へPR

### 三木金物商工協同組合連合会

兵庫県三木市本町 2-1-18

TEL : 0794-83-5305 FAX : 0794-82-3188

URL —

1,500年続く三木の地場産業「三木金物」は地域団体商標に登録された。組合連合会と三木市は連携を深め、三木ブランドを全国にPRし、地域活性化に寄与しようと努めている。

#### 【背景と目的】

播州三木は、わが国でもっとも古い鍛冶の街として栄えてきた。その起源は5世紀中頃まで遡り、1,500有余年の歴史と伝統を誇る。伝統的な大工道具をはじめ、様々な金物製品を生産する全国屈指の金物産地である。三木市においては事業所数としては全製造業中50%以上、出荷額としては30%を占める主要産業である。伝統産業を守り、未来へ伝承していくことは地域産業全体の振興に繋がる。当連合会と三木市が協力して「三木金物」のブランドを広め、三木市地域を活性化していくことが業界と地場活性化の目的である。

#### 【事業・活動の内容】

平成8年4月に鋸（のこ）、鑿（のみ）、鉋（かんな）、鋸（こて）、小刀の大工道具が「播州三木打刃物」として伝統工芸品の指定を受け、平成20年には三木金物が地域ブランド「地域団体商標」登録された。これを機会に組合連合会と三木市は連携を強化した。連携事業としては「三木金物まつり」「鍛冶でっせ！」等のイベント実施、「金物展示即売館」の運営、展示会出展など販路開拓・新商品開発・後継者育成・地域活性化等の事業を行っている。



古式鍛錬

#### 【成果】

「三木金物まつり」として組合連合会と行政が連携して運営するようになってから来場者が徐々に増加してきている。それまで5万人前後であったが、平成25年度は全国から16万5,000人の来場者を集め大いに賑わった。様々なイベントによって、金物の専門業者や既存ユーザーだけでなく広く一般消費者の方へ三木金物の良さを認知してもらえるようになり、新たな販路開拓へ繋がっている。また、直接消費者と接する機会を得て「お客様目線に立った商売をしていこう」という意識が組合員に芽生えてきている。三木工業協同組合青年部を中心にPRキャラクター「かなもんジャー」を創設し、意欲的にPR活動を行っている。これらの主体的な活動によって、市民の三木金物への愛着が増し、それを中心にして地域を活性化していこうという意識が着実に高まっている。今後は三木市だけでなく、観光協会なども連携していくことで、さらに効果的な三木金物のPR活動を行い、金物産業だけでなく三木市経済全体へのさらなる貢献が期待される。



金物販売でにぎわう会場

## 卸団地内従業員、地域の防災安全確保のため防災ハンドブック策定

協同組合鳥取卸センター

鳥取県鳥取市商栄町 202-2

TEL : 0857-23-0424 FAX : 0857-21-0819

URL —

東日本大震災後の度重なる災害発生から従業員の安全性の確保と地域サプライチェーン寸断のリスク軽減や地域連携推進のため、県内初の試みの自主防災・減災会を立ち上げるとともに防災ハンドブックを策定

### 【背景と目的】

東日本大震災以降、毎年のように発生する台風災害、豪雨災害などの異常気象により災害に対する意識が組合員の中に高まっていた。また、組合の立地が河川付近で水害が発生しやすく、埋め立て造成地のため地盤が脆弱といった特有の立地環境にあったこともあり、各社で働く従業員の安全性の確保と地域サプライチェーン寸断のリスク軽減、さらに地域内における組合のあり方の検討を目的として組合独自で防災ハンドブックの策定に取り組んだ。

### 【事業・活動の内容】

防災ハンドブックの策定にあたっては、国土交通省担当官や鳥取大学地域安全工学センターの専門家等の意見を全組合員が聞く機会を持ち、安全に対する意識の高揚を図りながら実施し、民間ベースでは珍しい自主防災・減災会も立ち上げた。

当事業は、従業員の生命の安全性確保に加え、参加した各委員の防災事業継続に対する意識改革に寄与するものとなったが、加えて卸売業者として緊急用の食材・

器材などを所有しているという強みを活かし、緊急時での組織的対応策についても委員会において検討を進めるなど、今後の防災事業の拡大が期待されるものとなった。

また、周辺町内会にも策定した内容を紹介、防災上の施設の共有化についても問合せがあるなど、徐々にではあるが地域とのパイプを形成しつつある。

### 【成果】

団地組合としては県内でも初の試みとなる防災ハンドブックの策定や自主防災・減災会の立ち上げにより、従業員の生命の安全性確保や団地組合としての地域との連携に対する意識改革等に寄与しており、活動は高く評価できるものである。しかし、事業は緒に就いたばかりであり、今後さらなる改善を図っていくとともに、この取組みの一環として、地域と連携して市民が集えるイベントの開催や緊急時における組合施設の地域への提供・共有化なども検討しており、防災事業を契機として地域連携の促進が着実に進んでいる。



策定委員会の様子



策定した防災ハンドブック

## 賑わい創出のため、オープンカフェの運営イメージを探る

### 香川県造園事業協同組合

香川県高松市鬼無町鬼無 741-1

TEL : 087-881-0072 FAX : 087-881-0073

URL <http://www.kagawa-zouenkumiai.jp/>

指定管理者として管理業務を受け持っている「高松市立中央公園」の賑わい創出を図るため、自主事業としてオープンカフェを提案し、担当課にも全面的に賛同を得て、試行に至った。

#### 【背景と目的】

当組合は、香川県内において、11 施設の指定管理者となっており、平成 26 年度に自主事業として、高松市立中央公園の賑わい創出を目的に「オープンカフェ」の運営を 4 月より試験的に行うことにした。なお、同様の発想が、高松市の職員提案でもなされていたため、担当課である高松市都市整備局公園緑地課には全面的に賛同を得ることができた。



入口に設置されたサインボード

#### 【事業・活動の内容】

運営に当たっては、カフェの運営ノウハウを組合が持っていないため、地元で食の総合プロデュースを手がけている有限会社 mizizi (ミジィジィ) の代表取締役役に運営の協力を仰ぐことにした。カフェに必要なテーブル、イス、テントなどの設備備品は組合において調達し、電気、水道、ガスなどについては、組合において担当課と交渉した。なお、全般的な運営経費を捻出するため、スポンサーを募ったところ、ある飲料メーカーがスポンサーに名乗り出てくれた。



オープンカフェの様子

そこで事業者を選定し、利益は出店者側にすべて帰属する一方で、1 カ月当たり約 5,000 円程度の「公園使用料」を負担することで出店させた。実際、出店店舗では平成 26 年 7 月より「から揚げナムル丼」、「チキンソースカツ丼」、「ピクルスカレー」、「ハムコロサンド」などが提供された。

#### 【成果】

有限会社 mizizi の代表取締役役に企画、運営方法等、全面的に依存する部分もあったが、直に指導を受けることで店舗運営のノウハウを獲得することができた。ただし、事前 PR が十分できておらず、当初は来客数が少なくなってしまうことは否めない。

しかし、事業後半には TV 取材も受けることができ、徐々に知名度も増し、状況は改善していった。現在、組合が指定管理者となっている他の施設でも同種の「自主事業」を行おうとする機運が高まっている。確かに公園等には飲食施設が皆無であるところも多く、これらにおいて適切な飲食施設が展開できれば、地域社会の賑わい創出に寄与し、また来園者の利便性向上に寄与するであろう。

三方よしの『あきんど精神』、行政と連携し社会に貢献	
熊本流通団地協同組合	熊本県熊本市南区流通団地 1-24（流通情報会館 2 階）
	TEL：096-377-2600 FAX：096-377-2603
	URL —

先行開始した組合独自のカーシェアリング事業を強みに、行政の公用車のカーシェアリング事業を組合子会社で受託し、組合事業と共に運営している。

#### 【背景と目的】

熊本県における代表的な流通団地、そして、子会社として「熊本流通団地株式会社」を有し、現在も成長し続けている団地協同組合である当組合では、組合員からの賦課金収入だけでなく、共同経済事業として安定的な収入を確保する事業を模索していた。そこで、組合員への還元も図れる団地内の組合員を対象にした「カーシェアリング事業」に着目し、組合内に設置されていた「新規事業検討委員会」に諮った後、調査・研究を行い、平成 23 年 4 月より乗用車 3 台で「カーシェアリング事業」を開始した。

#### 【事業・活動の内容】

「カーシェアリング事業」は、組合の子会社である「熊本流通団地株式会社」を事業主体とし、予約の受付や車の管理は子会社のカーシェアリング事業係により行っている。この事業推進体制は、「組合の直接事業、員外利用」の制限は受けず、流動的なニーズにも対応可能でありながら、組合のイニシアチブも保持されており、組合と組合員の新たな関わり方を考慮した体制であるといえる。



カーシェアリング事業で使用する車両

平成 25 年 2 月には、熊本市事業である「環境対応車カーシェアリング事業」を「熊本流通団地株式会社」が受託し、全国の協同組合の先駆けとして熊本流通団地協同組合の事業である「熊本カーシェアリング事業」と一体的に運用することとなった。なお、予約や料金の決済などのカーシェアリングシステムの構築及び運用上の管理については、システム管理会社に委託している。

#### 【成果】

カーシェアリングの車の平均利用率は、乗用車は約 50%、トラックは約 30%で、事業の収支バランスポイントであるキャッシュフローベースでは 2 年目で達成することができ、また損益(PL)ベースでは本年度に目標を達成することができた。組合員の中には、今後の事業利用を予定し、社用車の減車を実行している企業もあるなど、登録者数は増加傾向にある。

また、カーシェアリングの考え方の普及により、車の保有とシェアリング利用を損益分岐の視点で見る車ユーザーが増えている。なお、地域社会におけるカーシェアリングのニーズが高まる傾向で、さらに、社会貢献にもつながるため、地域における組合と組合活動の認識が広がり、団地の価値や存在感も高まってきている。

## 大災害時の食糧の安定供給を地域・全国組織で展開

### 大分県学校給食パン米飯協同組合

大分県大分市南春日町 12-5

TEL : 097-573-6752 FAX : 097-573-6753

URL —

広域災害時の被災者への食糧供給協力を県と結び県民に安心・安全感を与える。さらに、県下の供給体制が機能しないとき、広域で供給支援を得る体制を構築する。

#### 【背景と目的】

平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生した。当時、当組合では国や県、全日本パン協同組合連合会（全パン連）から食糧（パン・米飯）供給の可能数についての喫緊の調査依頼を受けた。その後、「大震災時に被災者の食糧を確保するため、全国展開の業界と協定を結んではどうか」という声もあり、これを機会として、大分県での大規模災害の発生における被災市民の命を守る食糧の供給・確保対策が重要であることから組合の理事会、通常総会、全パン連地方ブロック理事長会議等で議論し、県と「災害時における生活必需物資の供給に関する協定書」を締結することとなった。さらに、全パン連九州ブロックとも広域相互総合供給体制の構築に向けて取り組むこととなった。

#### 【事業・活動の内容】

活動の目的は、組合員自らの防災意識を向上させた上で、①複数県、市町村に及ぶ広域連携体制の構築、②全国・地方等の業界団体との締結を模索することである。県との協定は南海トラフ巨大地震発生に備えての食糧供給体制である。また、県下の組合員の工場が被災し、食糧供給が滞る場合、全パン連の九州ブロックと連動して食糧供給を行う全国初めての試みとなった。これは被災した地域が被災を免れた地域から食糧供給を得るという相互依存支援体制であり、全国組織である全パン連の組織をもとに全国展開する考えである。当組合は平成 26 年 8 月、県の南海トラフ巨大地震等の発生を想定した「総合防災訓練」に参加したこともあり、この訓練で当組合は救援物資（食糧・パン）を指定救援物資集積所と避難所に搬送する計画で、その重責を果たそうとしている。



県と協力体制を構築

#### 【成果】

大規模災害はその被害地域、被害状況などがどうか、起きてみなければわからないことが多い。実際救援は、被害地域、状況の可能な限りの正確な把握に基づいた指揮と実行が重要になる。よってシミュレーションによる訓練が極めて大切であると認識している。事実、県の「総合防災訓練」に参加することで様々な実体験ができた。



防災訓練の様子



## 地元産こんにゃくの伝統的製法の継承と新商品開発による地域活性化

### 木城こんにゃくの郷づくり事業協同組合

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 3872-4

TEL : 0983-32-2378 FAX : -

URL -

地元特産のこんにゃくを素材とした新商品開発と、販路拡大による組合員の経営安定化と地域活性化を実現する。

#### 【背景と目的】

木城町のこんにゃく芋の栽培と加工品の製造は、ここ数年は高齢化と後継者不足から生産規模が縮小している。この状況を打開し、木城町のこんにゃくの伝統的製法の継承と木城町の特産品化を目指して当組合が結成された。当組合では、本来こんにゃくが有する風味や味覚がそのまま味わうことができる新商品を開発、販売を共同事業として行う。こんにゃくの事業化計画は、組合員である参加農業者にとっても単に農産物の栽培に留まらず、加工や販売を行うことにより生産物に付加価値を加えた6次産業化事業が推進され、自己の収益構造が改善と利益確保が見込まれる事業である。

#### 【事業・活動の内容】

当組合では、こんにゃく芋の栽培技術の習得に始まり、商品加工所の設置と設備導入、商品開発体制の整備により新商品の開発を行う。また、県内外販売チャンネルの開拓や、各種イベントへの参加を通じて販路開拓に努力し、栽培、加工、販売を一貫して事業実施することで、6次産業化体制が構築された。設立間もないが今後、組合員の収益に貢献できるよう活動していく方針である。こんにゃく産地の群馬県から種芋を導入し、町中で栽培実験を重ねて収穫量を増やし、こんにゃくが町の特産品の素材として活用できることを実証したことで農業者が組合活動に参加する意思決定に繋がった。また、加工や販売を含めた事業化は個人の努力だけでは不可能であり、組合員が有する様々な経営資源を活用し、相乗効果を利用することが事業化の促進要因となった。

#### 【成果】

組合が製造を予定しているこんにゃくは、地元の伝統的製造法を継承し、本来こんにゃくが有する風味や味覚がそのまま味わうことができる新商品が開発され、地元特産品として県内外市場への出荷が期待されている。これにより、衰退傾向にあった木城町の伝統的農産物である「こんにゃく芋」の栽培が地元農業者の手によって再開され、そのこんにゃく芋を素材としたこんにゃくや「木城こんにゃく麺」等の加工品が開発され、町の事業収入の増加と雇用の拡大に繋がることに地域住民は大いに関心を示している。また、町内障害者施設内に設置された加工所をこんにゃく工程の体験学習観光コース、児童対象のこんにゃく芋畑の見学コース等に活用し、さらなる地域活性化に貢献していきたいと考えている。



こんにゃく加工の様子

## 海に係る関係機関と連携し、海を大切にすることを展開

### 沖縄県海洋レジャー事業協同組合

沖縄県宜野湾市新城 2-39-1 シューマンション A-7 号室

TEL : 098-917-0081 FAX : 098-917-0082

URL <http://www.oric.jp>

観光客増加とともに多様化するマリンレジャーのニーズに対応し、関係機関と連携して安心安全で自然環境に配慮する「海を大切にすることを育てる」事業を積極的に推進！

#### 【背景と目的】

組合設立当初は、組合員の事業をPRできるような体験ダイビングを主事業としたが、ショップ毎に実際のダイビングやマリンレジャーは、かなりの価格差があったため、それを一纏めにして事業化するのは大変困難であった。次に修学旅行対象事業に着目したが、100名以上の生徒を受け入れるために人・器材の調達から運営管理まで試行錯誤の連続であった。特に、安全管理は慎重に検討を重ねた。その際、安全に楽しめるダイビングの振興を促進するためには、関係機関が連携して取り組む必要性を感じた。

#### 【事業・活動の内容】

当組合は、沖縄観光の目玉であるダイビング&シュノーケルを教育旅行に組み込む「海の体験学習」を提供する先駆けであった。特に教育旅行の受け入れは、シュノーケリングのインストラクター育成事業を行うきっかけとなり、組合の安全対策の基盤づくりに繋がった。また、これまでの夏季限定から通年型受け入れへの転換となり、沖縄県観光にとって大変有益なものとなった。



海の体験学習の様子

安全面では、沖縄県警本部及び（一財）沖縄マリンレジャーセイフティービューロー（OMSB）と協力して、県条例である「水上安全条例」公安委員会指定の「安全対策優良事業者制度」「OMSB 水難救助員制度」並びに「シュノーケリング認定制度」等の制定に貢献し、実施に伴う事業者も数多く輩出してきた。

また、観光地のある地元警察署と連携し、観光客に特化した津波警報時における迅速的確な初動警察活動を推進するための実践的訓練も実施した。

自然保護では、沖縄本島・慶良間海域保全活動として、慶良間海域におけるゾーニング、オニヒトデ・シロレイシガイ等の駆除活動、サンゴの再生活動、モニタリング制度の構築、ダイビング船の諸制限や行政機関との連携システムの構築についても検討を行っている。

#### 【成果】

観光客増加とともにマリンレジャーにおけるニーズが多様化する中、行政機関や関係団体と連携の上、安全や環境保全に積極的に取り組むことにより、業界の安全対策や災害トラブル時の対応力・情報発信力の強化並びに組合と組合員のサービスと質の向上に繋がった。今後は、より高度な受け入れ態勢や安全対策の実現の上、広域連携での制度確立、企画立案や効果的な周知活動を行うことにより外国人観光客、障がい者や高齢者の誘客が期待できると考えている。

## 未利用材のバイオマス化で新たな収益源と環境への貢献

## 群馬県素材生産流通協同組合

群馬県藤岡市浄法寺 530

TEL : 0274-50-3311 FAX : 0274-50-3312

URL <http://www7.ocn.ne.jp/~sosei123/>

FIT 制度を活用した新ビジネスの立ち上げである。未利用間伐材を木質バイオマス発電の燃料チップに加工し販売することで、新たな収益源と森林資源の保護育成を図る。

## 【背景と目的】

木質バイオマス発電用燃料チップの加工・販売事業に新規事業として取り組んだ主な目的は、組合の新たな収入源の確保と組合員に対する収益向上、および県産材の流通促進、林業の育成である。背景には、既存事業（原木市場の設置運営）の低迷と森林資源の保護育成に対する危機感があった。また、製材に利用できない未利用間伐材の存在も課題となっていた。

わが国においても地球温暖化対策として再生可能エネルギーの機運が高まっている中で、FIT 制度（再生可能エネルギー固定価格買取制度）がスタートしたことも、未利用間伐材のチップ化による木質バイオマス事業化に弾みをつけた。

## 【事業・活動の内容】

新規事業の取組みに際して、群馬県環境森林部や群馬県木材組合連合会等の外部ネットワークと連携して支援を受けた。また、運営組織としては、組合の中に新たにチップセンターを設置し、従業員 1 人を専任者として配置する程度でコスト増は極力抑えた。事業内容としては、当組合がチップの材料となる未利用間伐材を素材生産業者である組合員からトン当たり約 4,000 円で買取り、組合工場においてチップに加工し、福島県の木質バイオマス発電所にトン当たり約 8,000 円で販売し、一定の利益が確保できるようにした。



原木をチップ化する設備

事業資金の調達は、ドラムチップパー等の新規設備に必要な約 7,000 万円のうち、群馬県の助成金から約 4,000 万円、組合自己負担が約 3,000 万円となっており、新たに組合員からの賦課金は募らなかった。運営費用のうち多くを占めるのは運送費で、トン当たり約 2,500 円かかり運送効率化が今後の課題となっている。

## 【成果】

事業開始後 6 カ月程度なので成果は未定だが、初年度は売上 1 億 7,000 万円、仕入費用および販売管理費 1 億 4,900 万円、事業利益 2,100 万円程度を見込んでいる。これは既存事業である原木取引の低迷を十分に補い、組合および組合員の新たな収益源として期待は大きい。

その他にも、森林資源の保護や環境エネルギーへの貢献、さらには組合と組合員の連携の強化といった効果も大いに期待できる。

## ものづくりの街・浜松に新風を巻き起こす医療機器開発

### 協同組合 HAMING

静岡県浜松市南区飯田町 155

TEL : 053-468-5815 FAX : 053-468-5825

URL <http://www.haming.wrng.jp/>

得意分野の異なる中小製造業がお互いの技術やノウハウを持ち寄って、医療機器製品の開発に挑戦。福祉・介護分野も視野に入れて浜松の地に新風を吹き込む。

#### 【背景と目的】

中核企業である橋本螺子株式会社が軽くて強いチタンの特性に着目し医療機器製造に進出した。しかし、医療機器分野での事業展開は1社で対応するには限界があったため、チタン加工などを得意とする企業と連携し、製造は役割分担し、研究開発や受注は共同で行うことを考え、浜松イノベーション推進機構内に設けられた研究会「メディカルプロジェクト」に参加していた中小製造業を母体として連携体が組織されてきた。その後、橋本螺子株式会社の呼びかけで、医療機器分野の製品を共同開発および共同受注を行うために当組合は設立された。

#### 【事業・活動の内容】

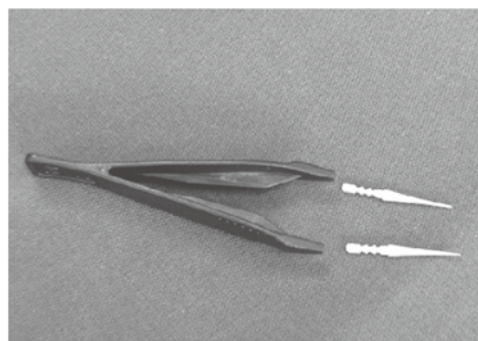
それぞれ得意分野の異なる中小製造業4社がお互いの技術やノウハウを提供して医療機器製品を試作・開発を行う形態とした。案件ごとに参加メンバーが替わる中、組合内に「プロジェクトマネージャー」を置き、各プロジェクトの進捗管理を行って運営が円滑に進むよう調整を行っている。その間にも並行して、組合活動を周知するために各種展示会やビジネスマッチングなどのイベントにも積極的に参加し、活動のPRに努めている。

#### 【成果】

組合発足後、医療機器の試作・開発が進んだ。具体的には、チタン製の手術用開創器の試作、肛門鏡の試作・量産、眼科で使う手術用マイクロピンセットの開発・試作などを手掛けている。さらには、福祉・介護分野も視野に入れて関連製品も共同開発、共同受注するための活動を続けている。その結果、展示会への出展活動と相まって組合の認知度も上がりはじめ、ものづくり製造業の街・浜松に医療・福祉分野の製品群も根づきつつある。



肛門鏡



手術用マイクロピンセット

## 安心安全の食品循環型リサイクルシステムの確立

### エコフィード循環事業協同組合

兵庫県加西市綱引町 2001-54 加西南産業団地 3-C 号地

TEL : 0790-49-9880 FAX : 0790-49-9888

URL <http://www.eco-feed.org/>

限りある資源を有効活用し育成された食用豚肉をブランド化。エコフィードの生産・販売、およびそれを通じた地産地消を推進する安心・安全のエコフィード循環システムを構築

#### 【背景と目的】

わが国の食料自給率は先進国の中で最も低く、飼料穀物についてはそのほとんどを輸入に依存しているのが現状である。そのような中、地球環境問題や限りある資源の有効活用の面から、食品残さを飼料として利用することは意義がある。このため当組合では、これまで利用されていなかった食品残さを利用した飼料生産により、持続可能な食の循環システムの構築を図り、食料・飼料の自給率向上や地産地消に貢献することを目指して活動している。

#### 【事業・活動の内容】

食品バイオマスから家畜の飼料となるエコフィードを生産し、畜産農家に出荷する事業を行っている。その飼料から、畜産農家が独自のノウハウで「霜降り豚」を育成し、安心・安全の高品質食肉を消費者に提供する。この循環システムを持続可能とするポイントは「安心安全の確保」。当組合施設では受入資源の品質管理を強化し、トレーサビリティシステムを始めとして安心・安全情報を食品残さ排出者、畜産農家及び消費者に提供する仕組みを構築。またエコフィードを飼料とした霜降り豚肉「ひょうご雪姫ポーク」のブランド化を推進し販路拡大を行っている。



エコフィード製造施設

#### 【成果】

持続可能な食品循環型リサイクルシステムを確立するため、安心・安全情報を提供する独自のトレーサビリティシステムを始め、食の安心安全を保障する仕組み「安全の3つのシステム、4つのプログラム」を作り上げた。これによって組合員には飼料代の低減、安定した飼料調達、高付加価値の豚の育成を可能とする安心安全な飼料を提供できるようになった。また流通規格に準じた品質ではなく、肉本来の美味さ、見た目等に準じた品質による価値を創造し、高価格製品（ブランド豚肉）を作り上げ、「ひょうご雪姫ポーク」の販路も拡大している。一連の取組みは平成20年度「食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞」、平成21年度「循環型社会形成推進功労者」等大臣表彰を受けるなど高く評価されている。今後は兵庫で確立した「環境にやさしい安心安全の食材提供の仕組み」を全国に広げ、さらなる環境社会への貢献が期待できる。

## 太陽光発電システム用金具、ブラケットの実用新案登録で飛躍的に受注向上

鳥取県板金工業組合

鳥取県鳥取市緑ヶ丘 3-14-5

TEL : 0857-23-7988 FAX : 0857-21-6171

URL <http://www.tottoribankin.com/>

下請体制脱却のため、長年、太陽光発電システム施工に取り組み、新たに組合独自の  
実用新案の登録を行った。共同受注が飛躍的に伸び、高付加価値需要の開拓の第一歩  
を踏み出している。

### 【背景と目的】

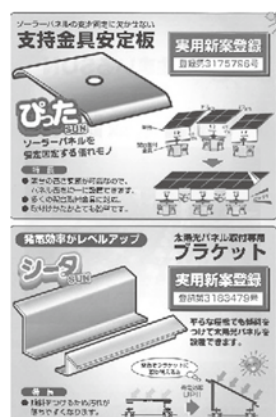
建築板金業は、建築業界で下請け的位置づけにあり、競争激化する住宅建築業界で生き残る  
ことが必要である。当組合では、受け身型から積極提案型への転換を目指して太陽光発電シ  
ステムの施工体制の確立のために、また、組合員の経営者等を対象として日々進化する太陽光発  
電メーカー等の技術研修や導入における経営研修を10年以上も積み重ねてきた。

### 【事業・活動の内容】

長期にわたり取り組んだ太陽光発電システム施工需要の基盤づくりの一環として、太陽光パ  
ネルの安定固定に欠かせない支持金具安定板、太陽光パネル取付専用ブラケットを組合独自で  
開発し、相次いで実用新案登録、広報用のロゴマークの商標登録も行った。当組合では、この  
実用新案登録の金具等を切り札として積極的な営業展開を行っている組合員の紹介、一般の施  
主からの注文、工務店から依頼、パネルメーカー代理店から受注が生まれ、共同施工として組  
合員が行うという新たな仕組みが完成している。

### 【成果】

組合独自で太陽光パネルの支持金具安定板、太陽光パネル取付専用ブラケットを相次いで実  
用新案登録を行ったことにより、組合を経由した太陽光発電システム施工の受注・共同施工が  
飛躍的に伸び、太陽光発電を取り入れた高付加価値需要の掘り起こしに成功した。今後は、さ  
らなる需要拡大のため他業界との連携を密にし、積極的な営業展開を行い、組合員の新規需要  
喚起に繋がることが期待される。



実用新案登録



太陽光パネルの設置作業

## 保有技術連携による医療福祉機器の開発

宇部鉄工業協同組合

山口県宇部市岩鼻町 6-6

TEL : 0836-21-1950 FAX : 0836-21-1950

URL <http://ube.axis.or.jp/>

医療福祉部会を設立し、幅広い分野で構成されており、部会内で、設計、パーツ製造、制御系などを分業し、組合員それぞれが共通認識を持って医療福祉機器の開発に取り組んでいる。

### 【背景と目的】

バブル崩壊後、日本経済の低迷期に伴い組合員の本業である鉄工関連の業務需要の低下から、組合企業の連携かつ保有技術や設備が活用できる新事業分野の開拓を考えはじめ「医療福祉部会」が創設された。また、時をほぼ同じくして、平成12年頃に国の施策として「産学官連携事業」が推進され、当地域の大学病院との意見交換会等を契機に医療機器の開発に取り組み始めた。

### 【事業・活動の内容】

医療福祉部会は協賛企業として、宇部地区以外の企業も含まれており幅広い分野で構成されている。医療機関の要求調査に基づき組合部会内で、設計、パーツ製造、制御系などを分業し、組合員それぞれが共通認識を持って機器の開発に取り組みノウハウを蓄積している。支援補助事業を活用し、自前検査装置の導入による医療福祉介護機器の試作から製品化期間の短縮可能とした。また、機器の強度計算については、連携先の宇部工業高等専門学校に依頼して構造解析(CAE)により検証している。

### 【成果】

医療機器から福祉へと舵を取り、地域資源活用新事業展開補助金、中小企業活路開拓調査・実現化事業を利用し、足浴機「足あらおっ」、手洗器「手あらおっ」、足首回転装置「くるくるゲン器」などの開発・販売を進めている。それらの成果が評価され、「ペレットストーブ」の研究開発を宇部市より委託された。



足浴機「足あらおっ」



手洗器「手あらおっ」

## 組合の遊休地を活用し、太陽光発電に取り組む

### 筑後川砂利砂協業組合

福岡県久留米市北野町金島 725

TEL : 0942-78-0155 FAX : 0942-78-0160

URL —

組合の既存事業である砂利の採取、コンクリート製品の製造が伸び悩む中で、新たに核となる事業を創出する。

#### 【背景と目的】

平成 12 年ごろ将来への組合運営が厳しくなることを想定して、解散するか、株式会社化するか議論が組合内部であった。県中央会に相談したところ、協業組合は業態変更で組織体を維持できることをアドバイスしてもらい、定款変更で協業組合組織のまま現在に至っている。また、平成 14 年頃から筑後川流域では河川の環境保護を目的に砂利採取ができなくなるとの影響もあり組合及び組合員の業績が悪化して、将来の組合運営に不安視する組合員が増えた。52 名いた組合員も 17 名になり、今後の組合運営をどのようにするか役員一同憂慮していた。その後も、平成 20 年のリーマンショック、平成 23 年の東日本大震災を経て、景気の低迷時期を迎えてきたことから、今後の組合運営を安定化していくために新たな事業を模索していた。

#### 【事業・活動の内容】

将来の組合運営を健全化するため、各種事業を模索していた折り、メイン銀行から東日本大震災を契機にした電力不足に対応した再生可能エネルギーである太陽光発電事業についての提案がなされた。そのため、組合ではその事業の可能性を検討するための研究会を立ち上げ、事業計画を立案し、平成 24 年の総会で太陽光発電による売電事業進出が承認された。

#### 【成果】

将来的に今回の新事業で財務状況の健全化が図られたと組合員は考えており、その評価も高い。現在は、当初の計画よりも実績が上回っており、このまま行けば 5~6 年での先行投資の回収も可能な見込みである。



ソーラーパネル



## 淡口醸造アミノ酸およびアミノ酸酢づくりへの挑戦！

福岡県醤油醸造協同組合

福岡県筑紫野市牛島 65

TEL : 092-922-3831 FAX : 092-928-3501

URL <http://www.fsjk.or.jp/>

味も香りも良く、薄色で血圧降下作用のある「淡口醸造アミノ酸」および「アミノ酸酢」を開発して、健康食品市場の開拓を目指す。

### 【背景と目的】

当組合は、自前で研究開発や製造部門を持つ協同組合で、醤油原液の生揚醤油を組合員に供給している。新たな商品開発にも積極的に取り組み、これまで蓄積した醸造・発酵技術を活用し、強い呈味力、血圧降下作用のある新規ペプチドを含む機能性調味料・機能性食品素材の開発を検討してきた。しかし、特有の臭いと色合いが商品化の課題となっていた。そこで、平成24年度「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業」を活用し、活性炭等による脱臭・脱色プロセスを導入することで、健康に関する食品市場を目指す「血圧降下作用を有する淡口醸造アミノ酸およびアミノ酸酢」の試作開発へ挑戦した。

### 【事業・活動の内容】

本事業は、当組合の技術部を中心に製造部との連携のもと開発を進めてきた。目標は、色で醤油標準色 50 番以上、成分では JAS 淡口醤油特級規格以上とし、次のような方法で実施した。①RO 膜脱色やイオン交換樹脂脱色の性能評価とコスト評価を行い、適正なものを選定する。②脱色工程と脱臭工程（既存設備による活性炭処理）の最適な組合せを検討し必要な設備の仕様を決定する。③設置したプロセスにより試験製造し試作品の品質評価を行う。また、顧客モニターテストを実施して最終評価を行うものである。このように脱色樹脂、逆浸透膜や活性炭を組み合わせた脱色・脱臭プロセスを導入して、色が薄く独特の臭いが少なく利用しやすい淡口醸造アミノ酸およびアミノ酸酢づくりを目指したものである。

### 【成果】

現在、第一次開発にも目途が立ち評価の最終段階となっている。今後は脱色後の色戻りの研究を続けながら、徐々に新たな市場への提案を進めていく計画である。色が薄く独特の臭いが少なく利用しやすい「血圧降下作用を有する淡口醸造アミノ酸およびアミノ酸酢」の製造を実現させ、組合員の老人食、介護食、医療食など外食市場や宅配市場参入へ貢献できるものと考えている。



豆醬酢



工場全景

## 木・枝をチップ化し、黒土と混ぜて新しい客土を開発

鹿児島県造園事業協同組合

鹿児島県鹿児島市吉野町 6084-1

TEL : 099-244-2478 FAX : 099-244-2634

URL <http://k-zouen.info/index.html>

「エコガーデン」を開設・運営することによって組合員の経営の更なる安定化を図ると同時に環境を破壊しない循環型社会への貢献や造園工事業者に適した客土を研究・開発

### 【背景と目的】

従来、組合員は、剪定した木や枝等の処理は近隣の産廃業者に持込んで処理していたが、持込み価格の高騰や造園工事に欠かせない黒土やシラス等にチップを混ぜて新しい客土（造園工事内容に最も適した土）を作るためにも組合による内製化でのチップ化が必要になった。木くずの産廃・一般廃棄物の中間処理施設「エコガーデン」を開設・運営することによって組合員の経営のさらなる安定化を図ると同時に、環境を破壊しない循環型社会への貢献や組合員へのチップ等中間処理品の無料配布を行い、造園工事業者に適した木や花の種類別とする客土（チップに黒土やシラスを混ぜて堆肥化）の検討や、新商品開発を目的として取り組んだ。

### 【事業・活動の内容】

チップ単体では付加価値が小さいので、技術委員会（研究開発グループ）で各自が自社の畑等で造園工事業者に適した木や花の種類別とする客土化（堆肥化）の検討を進めている。これに取り組んでいる組合員に対しては、チップを無料（組合が運賃負担して運搬業者に委託）して組合員の畑等へ届けたり、平成 25 年には鹿児島県所有の土地でマルチング材（植物の根元の土を腐葉土などで覆うこと）として、その効果の実証を見極めるよう実験を重ねている。

### 【成果】

エコガーデンの開設・運営が軌道に乗ってきたことで、持込み料の低減化が図られたことは大きな成果であるが、技術委員会で各自が自社の畑等で造園工事業者に適した木や花の種類別とする客土化（堆肥化）の検討をポット等を利用して野菜や花、木樹を栽培し研究・開発を進めると同時に、組合としても同様の研究・開発を産学官連携で検討中であり、今後の成果が待たれる。



中間処理施設「エコガーデン」



木くずや枝の粉碎作業



チップ仮置き場

<b>戸建住宅塗装改修工事の安心と信頼のシステム化を実現</b>	
<b>札幌塗装工業協同組合</b>	北海道札幌市白石区東札幌 5 条 1-29
	TEL : 011-822-4116 FAX : 011-822-4117
	URL <a href="http://www.sapporotosou.coop/">http://www.sapporotosou.coop/</a>

戸建住宅の塗装改修工事の施工前の診断から施工後の保証に至るまでの各工程をホームページで分かりやすく可視化し、安心して信頼できる受注体制の充実を目指す。

**【背景と目的】**

平成 22 年度に実施した「中小企業活路開拓調査・実現化事業」（組合等 web 構築支援事業）を活用し、ホームページを新規開設。一般ユーザー向けに組合員の紹介ページや、組合員向け専用ページには、見積・カラーシミュレーションなど掲載し運用していたが、さらにホームページを共同事業等に結びつけた有効活用を図るため一般ユーザー向けの戸建住宅塗装改修工事の受注に直接結びつく内容を付加し、リニューアルすることとなった。

一般ユーザーが戸建住宅の塗装改修工事を事業者が発注する場合、塗装事業者が多く存在することからどの事業者を選べばよいのか苦慮することが多く、また、見積書を見るとどのような作業工程なのか、施工工事料金が適正なのか分からない点が多く、さらには、業者によっては、見積の施工内容と実際の施工内容が食い違うなどのトラブルも少なくなかった。

このことを解消し、組合の共同受注に繋げるため、組合ホームページを活用してその各工程を分かりやすく可視化することが必要であった。

**【事業・活動の内容】**

平成 23 年度及び同 24 年度に国土交通省の助成事業である「建設企業の連携によるフロンティア事業」を活用し、「戸建住宅塗装改修工事等共同化事業」（愛称：「ペンキーズ塗装システム」）を実施した。

この事業は、組合の認定塗装診断士による無料での塗装劣化診断に始まり、診断結果に基づいた事前の提案、一般ユーザーにも分かりやすい見積書の提出、組合講習を修了した従業員による質の高い施工を実施するものである。その各施工のステップを施工前の診断から施工後の保証（施工した組合員企業と組合による完了検査を行い、合格したものには最長 5 年の塗膜性能保証書及び玄関貼付用シールを発行し、組合員企業との連名で保証を行っている。）に至るまでを一般ユーザーに対して組合ホームページを通じて分かりやすく説明し、受注に結びつけるものである。

助成事業で構築したシステムを継続実施しており、当組合の「ペンキーズ塗装システム」に頼めば安心という信頼のブランドを確立することを目指している。

助成事業で構築したシステムを継続実施しており、当組合の「ペンキーズ塗装システム」に頼めば安心という信頼のブランドを確立することを目指している。

**【成果】**

ホームページや新聞広告に PR による契約数は、平成 24 年度 49 件、平成 25 年度 60 件、平成 26 年度は 11 月現在で 29 件であり、そのうちホームページからの契約数は、平成 24 年度 8 件、平成 25 年度は 15 件、平成 26 年度 11 月現在 16 件となっており増加傾向にある。



組合ホームページ

## 業務効率化のため中古農機情報提供システムを開発

福島県農業機械商業協同組合

福島県福島市鎌田字卸町 14-5

TEL : 024-553-7892 FAX : 024-553-7893

URL <http://www.nokisho.or.jp/>

中古農機情報提供システムの開発に取り組むことで、中古農機情報提供の迅速化や組合業務の効率化を図った。

### 【背景と目的】

当組合は、以前より組合ホームページ上で組合員の扱う中古農機情報を提供していた。しかしながら、従来のシステムでは、組合員からの情報を手作業で入力する必要があったため、情報反映まで時間を要し、リアルタイムでの情報更新が困難であった。また、組合担当者の業務負担が過大であることも課題であったことから、組合員や顧客からのホームページ活用のニーズも高く、組合ではこれを一層活発化させたいとの思いがあった。そこで平成 23 年度に県中央会の組合ドック事業を活用し、ホームページを活用した中古農機具情報提供システムの方向性を検討し、そこで情報提供の強化の必要性を確認した。また、従来 FAX 等を活用していた組合員への連絡にかかる通信運搬費の削減も指摘された。この課題解決にあたり、全国中央会が実施する平成 24 年度「中小企業活路開拓調査・実現化事業」（組合等情報ネットワークシステム等開発事業）を活用し、新システムの開発に取り組んだ。

### 【事業・活動の内容】

組合員による迅速な情報提供及び組合担当者の業務負担軽減を行うよう、コンテンツ管理システムを活用した中古農機具情報提供システムを開発した。組合員は個々に割り振られている ID 及びパスワードを入力しログイン、個人ページで自ら中古農機情報を登録することで組合ホームページに商品の詳細情報が掲載される仕組みを採用した。

組合員の高齢化に伴い、管理画面操作は一つの画面で完結できる仕組みとし、組合員の利用しやすさを考慮した。また、中古農機情報を機種やメーカーごとに検索できること、パンくずリスト(ある Web ページのサイト全体の中での位置を、階層構造の上位ページへのリンクを順に並べて簡潔に記したもの)が設置されているなど、利用者にも使い勝手の良いシステムになっている。

### 【成果】

現在 70 組合員のうち、40 組合員が中古農機情報システムを利用している。組合員が直接情報登録できるようになったことで、情報提供の迅速化と事務手続きの軽減化が図られた。またホームページがリアルタイムで更新されるようになったため、組合員を含め関係者のアクセスが増加し、成約台数が増加した。さらに、当組合で実施している中古農機フェア等のイベントの周知の効果が高まった。



組合ホームページ

## ローコストで運用する即日予約システムで、小規模旅館をPR

**富山市ホテル旅館事業協同組合**

富山県富山市桜木町 11-2 第一パ-キングビル5階

TEL : 076-441-4796 FAX : 076-441-4797

URL <http://www.toyama-yado.com/>

即日予約システムを搭載した組合ホームページを低コストで制作・運用し、大手の宿泊予約サイトに出店できない、小規模旅館の客室を販売する。

### 【背景と目的】

インターネットが黎明期を迎え、平成8年にホテル予約サイト「旅の窓口」(現・楽天トラベル)が開設されて以来、ホテル旅館の予約は徐々にインターネットへとシフトしていった。小規模な旅館などの組合員は大手予約専用サイトに出店が難しいことから、組合において即日予約システムを搭載した組合ホームページを制作し、ローコストで運用することになった。

### 【事業・活動の内容】

予約システムはローコスト化を図るため福井コンピューターのシステムサービス「てなわん」を使用した。

組合員の中でも旅館などの小規模な組合員は当組合のサイトを主力としているケースが多く、これに合わせて旅館のホームページやブログによって、きめ細かな情報を発信している。

### 【成果】

「1泊2食付き」「工事連泊割引プラン」など旅館が得意とするサービスの情報提供が進むなど、特定のニーズに対応するようになった。

インターネットから予約ができにくい団体客には組合のホームページが有効に活用され、繁忙期の8月や「おわら風の盆」時のアクセスは非常に多い。組合ホームページの制作・運用に合わせて、今までホームページを制作していなかった小規模旅館などが自社ホームページを制作するようになり、またブログ等でも、より詳細な情報を発信できるようになった。



組合ホームページトップ



即日予約ページ

## 組合員を支えるホームページを目指して

### 協同組合武生問屋センター

福井県越前市小野谷町 11-1-5

TEL : 0778-24-4222 FAX : 0778-24-4225

URL <http://www.taketon.jp>

「組合情報の発信力強化」と「人材確保」を重点目標に組合ホームページを刷新。組合のイメージアップ、組合員の採用活動支援に寄与している。

#### 【背景と目的】

当組合は、卸商業団地組合として設立以来、福井県越前市の流通拠点としての役割を果たしてきたが、近年は大手小売店を中心にメーカーからの直接仕入れで流通コストを抑えようとする動きが広がり、組合員の取扱量が減少してきている。また、不況も重なり、組合員の倒産や撤退が発生していた。こうした組合運営への危機感の中、組合員企業の支援と活性化を目指し、組合ホームページの刷新を図った。

#### 【事業・活動の内容】

組合ホームページの刷新にあたり、「組合情報の発信力強化」、および、組合員企業が課題としていた「人材確保」への対応を重点的に取り組んだ。ホームページでは、青年部、委員会や勉強会などの活動報告やイベント情報も頻繁に更新され、組合の最新の情報が提供されているほか、組合員間及び地元での取引増を目的とした「どうせ買うならカタログ」を掲載し、様々な生活シーンでの組合員企業の利用を提案している。

また、組合員企業の求人情報や若手社員のインタビュー、仕事内容を映像で紹介するコーナーなど「人材確保」への内容も充実させている。



組合ホームページ

#### 【成果】

ホームページの刷新により組合情報が充実し、紙媒体の情報誌では限界があった情報伝達力が向上。組合事務局が更新を頻繁に行い、組合の活動状況を発信し続けることで、組合や組合員間の理解が高まった。

また、「人材確保」については、組合員に対し新たな採用情報の発信手段が提供されることで、採用活動の一助となっている。併せて、組合として雇用環境の改善や人材育成プランの作成にも取り組み、組合員の意識改善にもつなげている。求人情報だけでなく、社員インタビューや会社紹介の動画を掲載することで、組合員企業はもとより組合に対するイメージアップにもつながり、地域への認知度向上にも効果があった。

今後は、課題となっている組合員の販路拡大の支援に向け、「組合ネットショップ」の開設を構想中である。現在青年部を中心に「ネットショップ研究会」を立ち上げ、実現化に向け活動を続けていく方針である。

## 組合 HP「業務効率向上」への入り口はここから！

### 佐賀県貨物自動車事業協同組合

佐賀県佐賀市西与賀町厘外 1592-4

TEL : 0952-24-2227 FAX : 0952-24-2228

URL <http://www.sagakakyo.jp/>

組合の事業、業界情報等の情報発信、Web ショッピング、クラウド運行管理システムと一体化。組合ホームページが組合員の情報収集だけでなく、業務効率化への窓口となる。

#### 【背景と目的】

当組合がホームページを開設したのは平成 9 年である。当初は、コスト面の優位性、リアルタイムで情報が発信、更新も可能という情報の即時性の面から、組合員への情報提供を目的として、ホームページの開設に取り組んできた。情報提供の内容としては、組合の事業内容、行事、周知事項、業界情報へのリンク等の他、Web ショッピングシステムであった。開設当時は、まだ組合員企業においても、インターネットの導入がそれほど広まっていない状況でもあったことから、組合でいち早く情報化に取り組み、組合員間で情報システム自体を共有して利用することで、組合員企業の情報化コストの負担軽減を目指した。

#### 【事業・活動の内容】

当組合では、その後、ホームページの改編を進め、Web ショッピング、利用明細照会システムの構築により、車両消耗品等の安価な購入、利用明細の管理負担軽減を実現した。また、新たに、「クラウド運送管理システム」も開発中であり、高速道路利用、燃料や消耗品購入について、管理業務を一元化して管理できるようにした。組合ホームページは、組合員企業の運行経費のコスト低減や業務の合理化といった、業務効率化への入り口となっている。

#### 【成果】

現在、組合員企業ではインターネットの接続環境の整備がほぼ完了しており、当組合は組合事業関連の情報提供の他ほか、高速道路、燃料の購入等について、ホームページを活用し、コスト低減、業務の効率化に寄与。組合員は、組合関連事業だけでなく、業界関連の最新情報についても一元化された入口（組合ホームページ）から入手し、Web・クラウド活用により、業務効率化を実現している。



組合ホームページの組合員専用ログイン画面

<b>教育研修教材、業界周知用ツール等様々な場面で活用中</b>	
<b>協同組合熊本県鉄構工業会</b>	熊本県熊本市東区健軍 3-31-12 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1 階
	TEL : 096-331-3488 FAX : 096-331-3483
	URL <a href="http://kajiya01.sakura.ne.jp/">http://kajiya01.sakura.ne.jp/</a>

補助事業を活用し、組合の内容や組合員を知ってもらうために作成した HP は、企業現場を中心に表現され、DVD 化し、教育研修教材や営業用ツール等様々な場面で活用中。

**【背景と目的】**

鉄骨建築の製造・施工企業は、4K の建築専門業であり、若者の新規従業が困難な業種であるが、技術の継承や事業の継承などの点からも高い技術力や熟練の技能が必要なやりがいのある仕事であることを知ってもらう必要があった。組合及び組合員は、この課題解決のため、鉄骨建築の製造・施工業務について紹介する情報発信をインターネットにより行うことを目的に、平成 22 年～平成 24 年の 3 年間で「中小企業人材確保推進事業」を活用して、組合のホームページの作成に取り組んだ。

**【事業・活動の内容】**

組合及び人材確保アドバイザーで構成される人材確保検討委員会で月 1 回協議を行い運用。業務内容周知のため、『私たちの仕事（鉄骨加工の製造・組立工程別の技術・技能の解説）』・『大人の工場見学（組合員企業の工場を社長が案内・紹介）』・『鉄へのこだわり（映像コンテンツ）』・『鉄人が答える Q&A（鉄骨の材質、性能評価、製作、検査、溶接など鉄骨に関するさまざまな情報を、わかりやすく詳細に説明）』・『Photo Gallery（従業員の働いている写真など紹介）』・『採用情報（熟練の職人である「鉄人」が熱く仕事を行う上での思いを語る『鉄人の条件』や様々な職種の社員や職人が登場し、仕事への思いややりがいを語る『鉄人の生声』』の 6 項目で構成することとし、3 年間で完成させる計画で取り組んだ。



組合ホームページ（動画）

**【成果】**

アクセス数は平成 26 年 11 月 25 日現在、3 万 8,531 件に達し、組合に対しての雇用に関する問合せ、ホームページを見て情報を得て応募してきたと思われる若い求職者があるなど、組合員企業において若い従業員の雇用は増えつつある。一方、組合員では、新人教育・従業員研修用の教材、営業用ツールなどにホームページを活用し、当組合や組合企業の業務内容について、内外へ紹介を行っている。さらに、素人でも理解できるビジュアルで表現した現場優先の内容等に費用と時間をかけ取り組んだことにより、他組合などから先進事例として紹介要請があるなど、外部の評価も高く、コンテンツの良さを組合、組合員ともに再認識している。



## ブログ型 HP と SNS の連携でアクセス数大幅アップ

鹿児島総合卸商業団地協同組合

鹿児島県鹿児島市卸本町 6-12

TEL : 099-260-2111 FAX : 099-260-2109

URL <http://www.orocity.or.jp>

電子商店街を廃止し、組合及び組合員の情報発信を目的にリニューアル。ブログ型ホームページと facebook を連動させてアクセス数が 36% アップ。

### 【背景と目的】

当組合は、鹿児島市内の卸業者が集団化し、地域の流通機能を高め、商品供給の安定を通じて地域雇用の創出・地域経済の発展に寄与する目的で昭和 42 年 12 月に設立された。近年、卸業者を取り巻く経営環境の変化は激しく、インターネット等の情報化進展もその一つである。特に、ネット販売が急速に拡大しており、組合員にとっては新たな競合先の出現となることから、情報を活用した組合員の支援策に取り組んだ。

### 【事業・活動の内容】

平成 17 年、IT 推進委員会が組織され、組合員のインターネット販売参加を支援するための電子商店街「オロシティ〜黄金の街」を開設した。しかし、ネット販売を巡る環境変化は激しく、また、組合員自身によるホームページ開設やネット販売への参加の動きもあり、電子商店街の役割は終えたとの判断から平成 24 年に廃止した。

しかし、平成 26 年 2 月、作業部会でホームページの役割を再検討した結果、組合や組合員の情報を迅速に発信し、多くの人に閲覧してもらうことが重要であると再認識し、ホームページをリニューアルしオープンさせた。



組合ホームページ

### 【成果】

電子商店街は廃止したが、組合員のインターネット販売に対する貴重な体験の場となり、組合員自身によるホームページ開設やネット販売参加への促進には繋がった。平成 26 年 2 月にリニューアルしたホームページのアクセス数は前年同期比 36% アップと成果を上げた。最新の無料ブログ型ホームページ作成ソフトで構築し、facebook と連携して検索エンジン対策を高めた結果である。このソフトはブログ等情報発信に秀でていて、迅速な情報発信には最適である。投稿記事は自動で facebook に転送される。また、スマートフォンの画面にも対応している等機能も豊富である。新サービスへの対応など機能追加も可能である。さらに、システム開発費、運用コストも安価に抑えられている。

上記の通り、当組合は情報化の進展に合わせ、ホームページを有効に活用している。今後、YouTube による動画配信や組合員専用ページで特売情報等を共有する等の構想もあり、組合員の情報発信・収益拡大に貢献することが期待される。

**女性事務局長を登用し、業界初となる女性部を設立**

<b>茨城県電気工事業工業組合</b>	茨城県水戸市新原 1-2-7
	TEL : 029-252-3133 FAX : 029-252-3134
	URL <a href="http://www.ibarakiken.or.jp/ibaden/">http://www.ibarakiken.or.jp/ibaden/</a>

女性事務局長を中心に、単なる福利厚生に留まらない実践的な女性部事業を展開し、組合全体の活性化を図る。

**【背景と目的】**

当組合では、平成 8 年から女性事務局長を登用。事務局長は、平成 17 年頃から県中央会の女性部である茨城県中小企業レディーズ中央会に参加・協力。その経験から、組合においても女性同士の“繋がり”を感じ仲間を持つことができる女性部の存在が重要と考え、組合女性部の設立に尽力。平成 19 年 2 月に全国 47 の電気工事組合に先駆けて、女性部を設立した。



女性部設立総会

**【事業・活動の内容】**

女性部は、電気工事業に関わる法律・経営等のセミナーや現場で役立つ勉強会をはじめ、東京電力、パナソニック等の協力による視察研修などを実施しているほか、ボランティア活動や「電気使用安全月間」に係る街頭活動などにも力を入れており、単なる女性同士の交流に留まらない活動をしている。また、事務局長は、自身が有するマナー講師の資格を活かし、研修会等で従業員の指導を行うとともに、「おもてなし」の意識徹底による接客対応等の改善で組合員が訪れやすい事務局を目指し、事務局職員の意識改革にも取り組んでいる。



女性部研修会の様子

**【成果】**

“男性の仕事”という認識が根強い電気工事業界において、組合が女性の活用を推進する姿勢を示すことで、組合員の意識が変化し、組合員においても女性の積極活用が行われるようになった。

また、女性部の団結力の強さが親組合・組合員にも波及。事務局の姿勢も評価され組合事業へ参加・協力する組合員が増加するなど、組合としての一体感も強まっている。さらに、女性部の積極的な活動は、県内外における組合のイメージアップに繋がっている。

後継者不足・人出不足がますます深刻化するであろう電気工事業界において、女性の活用に活路を見出すことには大きな意義がある。当組合では理事長はじめ役員女性の活用に対する理解が深く、女性の積極活用を組合主体で推進する体制が取られているが、現在、全国 47 の電気工事組合において女性部を組織している組合は本県のみである。今後、業界を挙げた女性の活用を図るためにも、女性部独自の活動を積極的にアピールすることで、全国に女性部の活用が広がることを期待したい。

## 近江上布の市場開拓を目指した女性視点の産地ショッ

滋賀県麻織物工業協同組合

滋賀県愛知郡愛荘町愛知川 13-7

TEL : 0749-42-3246 FAX : 0749-42-6488

URL <http://www.asamama.com/>

エンドユーザーとの接点が少なく市場変化に対応しにくい業種特性を持つ麻織物工業において、消費者感度の高い女性スタッフにより産地ショッ運営や海外展開を実践している。

### 【背景と目的】

近江上布は、室町時代から当地に伝わる伝統的な織物で、現在でも染織から仕上げまでの工程の企業がすべて存在している全国でも数少ない産地である。しかしながら、消費者ニーズの多様化が進み従来の和装用反物としての需要が減る中、ファッション性の高い様々な織物製品に応用していかなければならないという状況にあった。

このような中で平成 21 年の近江上布伝統産業会館リニューアルを契機として、消費者視点を持ちながら感性の高い事業展開が行えることを期待して、女性を主体として産地ショッ「麻々の店（ままのみせ）」を設置し、エンドユーザーへの直接のアプローチを図ろうとした。

### 【事業・活動の内容】

「麻々の店」は客層のほとんどが女性であり、女性消費者視点での「近江上布」を使ったオリジナル商品開発が求められていた。そこで、織物業としての業種特性から最終製品を作ることがなく消費者の反応を直接聞く機会の少ない組合員に代わり、消費者感度が高くクリエイティブワーク経験のある女性職員などを登用し、ショッ運営を行った。



麻々の店の様子

具体的な取組みとしては、女性視点から製作した天然素材の麻製品の展示販売や、「フランス雑貨の店運営及びフランスへの留学経験」のある女性職員を中心とした海外の展示会への出展である。特に海外展開は、女性職員の活躍により、フランスで開催された世界最大級の国際インテリア・デザイン見本市「メゾン・エ・オブジェ」への出展に繋がった。



国際インテリア・デザイン見本市

### 【成果】

本事業への取組みにより、麻々の店の来客状況は観光地でもないにも関わらず夏のシーズンを中心に全国から来られ、年間 4,000 人程度が来館する。また、団体での来館も年間 30 団体程度あり、体験を中心に問合せの電話も急激に増えている。さらに、地元との連携の一つとして、愛知高等養護学校における実習教科として麻織物が決まり、畑でのおひきから布作りまで勉強するプログラムが動き出している。

これらの取組みを通じて、組合や組合員企業には国産の麻製品をお求めいただく消費者の「生の声」が聞こえるようになり、麻生地生産と並行した製品開発に対する意識が高まるだけでなく、近江上布の海外展開の足掛かりとなっている。

## 子育て世代女性の地域振興と商店街活性化活動の融合

### 大映通り商店街振興組合

京都府京都市右京区太秦堀ヶ内町 31 たぬき堂書店内

TEL : 075-861-0534 FAX : 075-865-1561

URL <http://kinemastreet.com/>

目的を同じくする子育て世代女性が中心となる地域振興活動と商店街活性化活動が融合することで、まちのブランディング化、地域振興の契機となる。

#### 【背景と目的】

近年、大規模小売店舗が相次いで開店する京都市内において、右京区に位置する当商店街も空洞化対策、活性化が課題となっている。当商店街が立地する太秦地区は昭和初期から複数の撮影所があったことから「キネマのまち」と別名をもっており、地域資源の「映画」をコンセプトにイベントの実施、映画フィルムに施したカラー舗装を行うなどの取組みを行っていたが、商店街活性化には、なかなか結び付かなかった。

そのような中、当商店街に子育て世代の女性が中心となり地域振興を目的の一つとする NPO 法人が参画、同 NPO 法人の女性理事長が組合内においては専務理事に就任し、商店街組合と NPO 法人が連携した活動を行うことで商店街及び地域の活性化に繋がっていった。

#### 【事業・活動の内容】

組合内において、キネマキッチン事業、夏祭り、ガラガラ抽選会等の組合事業運営に携わるとともに、代表を務める NPO 法人との連携を密にした事業実施が可能である。「地域の魅力」を、商店街を通じて創出する事業を商店街・NPO 法人双方で実施し、特に「地域の人」と「子どもを中心とした各世代」を絡ませた取組みに注力している。商店街組合内部においては「新参者」「女性」であることではなく同氏の行動力・発言力が評価され、専務理事として活躍している。女性として特段に性別を意識することなく、「1 人の組織人」としての責任を持った発言や、活動を貫いている。

#### 【成果】

商店街組合員内部においても自主的な取組みが活性化し、様々な活動が地域の活性化（来街客数の増加、イベント参加人数の増加）に繋がり、「正のスパイラル」が生まれることで「商店街」という「場」の活用、魅力の高まりを見せている。

商店街という一つの「場」を育てていく過程の中、平成 25 年 3 月、商店街のシンボルとなる「大魔神」像の設置、コミュニティスペース「キネマキッチン」開店となった。これがさらなる融合反応を発生させる起爆剤となり、地域全体の活性化、「街の付加価値」を向上させることで、地域外・外国人観光客等の来街者の増加、商店街内での新規出店や新規加入者に繋がっている。

商店街の活性化・地域の活性化には来街客の増加はもちろんのこと、ハードウェアとしての多種多様な魅力ある店舗が必要であり、「ビジネスを行うに適した街」としての受入れる体制が構築されてきており、「街の付加価値」のさらなる向上のため、それらを推進されていくことが期待される。



大魔神像

## 「女性ならではの」の強みでワンランク上の組合に！

### 尾道観光土産協同組合

広島県尾道市栗原町 9381-4

TEL : 0848-25-3880 FAX : 0848-25-3884

URL <http://www.eemonya.jp/>

女性管理職を中心とした、「女性ならではの」の視点や感性等の強みを組合運営に活かす仕組みを構築し、共同販売事業の発展と組合機能の強化、運営の円滑化を実現した。

#### 【背景と目的】

当組合は、組合員の製造する観光土産品の共同販売を2店舗体制で実施していたが、事業の拡大に伴う新規出店に際して、スタッフの増員、シフト管理の複雑化、新規の売場設営等への対応が必要となった。また、競合店の出店という外部環境の大きな変化もあり、業務運営のブラッシュアップ、顧客満足度の高い魅力的な売場作りの実現が課題となっていた。

この様な状況の中、管理職に登用した女性従業員を中心に、「女性だからこそ、気づける事」を強みにした事業運営による組合活性化のため、様々なアプローチを図っていくこととなった。

#### 【事業・活動の内容】

共同販売店舗の運営に「女性の視点」を徹底活用した。組合員の商品に関するマーケティング（試食試飲の実施含む）、来客者の多くを占める女性顧客に対して効果的な商品紹介ポップの作成などに、女性の感性の豊かさはもちろん、日常生活の中で培われたノウハウや気付き、実感を活用して取り組んだ。

併せて、業務運営体制についても「女性の視点」を活用した。

各店舗の現状認識、組合組織の現状を理解するために社内アンケートを実施。中央会から派遣された専門家に相談しながら、社内環境、マネジメントなどについての意見、要望を募り、管理職に登用された女性従業員によるきめ細かく正確な情報の吸い上げと集約により、運営体制へのフィードバックを図った。

さらに、店舗ごとの連絡ノートを作成し、お客様からのご意見・ご要望や組合員同士の連絡事項を、その日のうちに各店の従業員が認識を共有できる体制を築いた。

#### 【成果】

組合として、ヨコ（同期・同僚・職場内）のコミュニケーション、タテ（経営層と従業員）のコミュニケーション、全社的なコミュニケーション（全社的一体感づくり）が円滑になり、スタッフ全体のモチベーションアップにもつながった。また、店舗従業員・組合員・消費者間のコミュニケーション機会が増加し、組合員同士のコラボレーション企画も始まりつつあるなど、組合員レベルでの活性化にも寄与している。

今後も、店舗従業員が現場で得た「消費者の生の声」を組合員へ提供するとともに、組合員の新商品開発に向けたアイデアの提供を進めていく方針であり、組合全体の一層の発展が期待される。



店舗外観



女性の視点を活かした売り場

## 組合インタビュー

～自然と共存した緑豊かな街づくりを通じて地域振興に貢献～

かのや緑化協同組合 理事長 宮里 郁男 氏

緑豊かな自然に囲まれ農畜産業が盛んな大隅地区において、公園施設の維持管理や緑化ボランティア活動を通じて「自然と共存した緑豊かな街づくり」に取り組む「かのや緑化協同組合」を訪問し、理事長の宮里 郁男氏にお話をお伺いしました。



### ➤ 組合設立の背景を教えてください

大隅地区における造園工事は、県立大隅公園をはじめ、大型の公共事業はほとんどが完了していました。また、我々造園工事業者は、もともと経営基盤が脆弱なうえに、同業者間の厳しい受注競争下に置かれていました。

そこで、指定管理者制度創設の動きがあることを機に、鹿屋市の造園工事業者 10 社が結集し、造園工事の共同受注を柱とした共同事業を行うことにより経営の合理化及び業界の健全な発展を図ることを目的に、平成 15 年 5 月に設立しました。

### ➤ 課題解決に向けての取り組み

造園建設業界は、依然として公共事業の減少や民間需要の低迷により厳しい状況が続いております。しかし、好転するのを待っているのではなく、絶えず造園技術を磨く努力を続け、“緑”に対する様々な提案をしていくことが必要であると考えております。そのためには、業界及び関係機関が力を合わせて取り組むことが重要であります。

### ➤ 組合事業について

現在、造園工事の共同受注を主に事業を実施しています。特に、鹿屋市から小塚公園等の公園施設、鹿児島県から照葉樹の森の指定管理者業務を受託することで、組合員の仕事の確保と技術力の向上に繋がっています。照葉樹の森は、天然記念物・自然生態系保護地域・自然環境保全地域の指定を受けるなど貴重な森林の保全に関わっており、イベント等の更なる充実を図るため、グリーンマスター等職員の資格取得にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、これまで実施できなかった苗木等の共同購買、緑化樹の共同販売についても実現に向け知恵を結集して参りたいと思います。

### ➤ 今後の抱負

理事長に就任してから 2 年目を迎えました。厳しい状況は続きますが、組合員一丸となって指定管理者の受託や組合員が受注できる環境づくりに取り組みながら、業界及び地域社会の発展のため一歩ずつ前進して参る所存です。

#### 【組合の概要】

◇代表者	理事長 宮里 郁男
◇組合員数	8 人 (平成 27 年 3 月 31 日現在)
◇主たる事業	造園工事の共同受注、苗木等の共同購買、緑化樹の共同販売
◇組合員資格	緑化樹の生産又は造園工事を行う事業者
◇連絡先	鹿屋市笠之原町 2957-1 Tel 0994-35-0277 fax 0994-35-0275

Never Give Up! 元気を出そう! がんばれ中小企業

## 楽しくなければ旅行じゃない! かごしまの魅力を世界に発信する

アローツーリスト株式会社 代表取締役 中間 幹夫 氏  
(鹿児島県旅行業協同組合 理事長)

アベノミクスの「新三本の矢」として、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」が示され、「1億総活躍社会」の実現が期待されます。しかし、地方においては、個人消費の低迷や人口減少が進んでおり、地方再興は喫緊の課題となっています。

こうした中、かごしまの魅力を県内外に発信し、旅の魅力を提供するアローツーリスト株式会社を訪問し、代表取締役の中間幹夫氏にお話を伺いました。



代表取締役 中間幹夫氏

### 【会社の歴史と概要】

弊社は、昭和 57 年に旅行業「アローツーリスト株式会社」として鹿児島市で創業しました。9年間の旅行会社勤務を経た後の独立開業でした。創業時は小川町に事務所を構えておりましたが、平成 20 年に易居町の市電「水族館口」前にあるオフィスビルに移転し、現在に至ります。

当初から法人を対象とした社員旅行を取り扱ってまいりましたが、その後、着地型旅行商品の販売を開始、また、イベント、コンベンション、セミナー等の手配も手掛けるようになり、業務の幅を広げてまいりました。

### 【社是・モットー】

旅の定義は人それぞれですが、現代人は苦労やストレスと日々戦っており、旅はこのような日常から解放され、自分に戻れる時間ではないかと思います。そのため、どのような心くばりやおもてなしが、お客様に喜ばれ、ご満足いただけるか常に考えております。

弊社では「お客様お一人お一人を大切に」を社是に掲げ、「楽しくなければ旅ではない」との考えのもと、「真摯に・感謝の気持ちを忘れずいつでも笑顔で」をモットーに魅力ある旅の提供に努めております。

#### 《 社 是 》

「お客様お一人お一人を大切に」

#### 《 モ ッ ト ー 》

「真摯に・感謝の気持ちを忘れずいつでも笑顔で」

## 【業界を取り巻く状況】

国内旅行は、企業の業績悪化や帰属意識の低下等を理由に社員旅行が減少し、大変苦戦しております。

また、インバウンド（外国人旅行者）は増加していますが、人気スポットを回るゴールデンルートに集中しており、ホテルやバスの価格が高騰するなどマイナス面も生じていることから旅行業界全体の活性化に結び付いているとは言い難い状況です。

一方、消費者ニーズはますます多様化しています。1社の力でマーケットを作り出せる時代ではなくなっており、旅行者だけでなく関係者が協力し合い、ニーズに合った旅行を企画し提供していかなければなりません。

また、インターネットの普及により利用者の旅行会社離れが進んでいますが、旅の魅力を提案するリアルエージェントが否定されるものではなく、その必要性はさらに高まるものと考えております。

## 【当社の取り組み】

弊社では、民間企業や福祉組織等が実施する社員旅行・団体旅行の手配、鹿児島県旅行業協同組合並びに全国旅行業協会がプランニングした着地型旅行商品「魅旅」・「地旅」の販売を行っております。

また、鹿児島で開催される全国大会やフォーラム等の手配とプランニングに関するサービスを提供しております。

### 魅旅（みたび）

「魅旅（みたび）」は、鹿児島県旅行業協同組合が提供する着地型旅行商品のブランド名です。鹿児島ならではの自然環境や景観、歴史・文化、食、伝統芸能等の地域資源を取り入れた多彩な旅行プランをご準備しております。

鹿児島の魅力を存分に堪能してもらい、“かごしま”へ二度三度（ふたたびみたび）訪れたいくなるような地域密着型の旅行を企画・提供しています。

#### 《魅旅の商品例》



志布志お釈迦まつり  
鹿児島県下三大祭り



流鏝馬を終えた後は射手や馬と  
一緒に記念撮影も出来ます！



伊佐に伝わる神舞（かんめ）と曾木の滝公園もみじ祭りを堪能する  
大人のための知的な旅



## 地旅（じたび）

「地旅（じたび）」は、全国旅行業協会に加盟する旅行のプロが厳選し、貴重な体験ができる地域密着の着地型旅行商品です。

全国各地の自らの「地域」を誇りに感じている人たちが、そこを楽しみに来てくれる人たちのために、企画しておもてなしする旅行プランです。日帰りツアーから宿泊体験オプションツアーなど、多種多様なラインアップで今までにない旅行の感動を提供します。

### 《地旅の商品例》



四万十川をカヤックで下るガイドツアー！



津軽の奥日光・岩木山神社と高照神社めぐりとマタギ飯



とみやまの柚子摘み&マーマレード作り

### 【変化への対応】

当初は建設業者等の社員旅行を取り扱っていましたが、順調に実績を上げていましたが、ある時、会計事務所から経済動向の変化に対応するためには違う分野の顧客も開拓すべきとの助言をいただき、これまで縁の無かった福祉分野の顧客開拓に挑戦することを決断しました。この取り組みが新たな顧客の開拓につながり、経営の安定強化を図ることができました。後日、社員旅行が減少した実情から当時の判断は間違っていなかったと思います。

さらに、お取引をさせていただく中で福祉関係の九州大会やイベント等の手配をご用命いただくようになり、今日では弊社の中核事業に成長しております。

### 【人材育成について】

旅行業界においては、グローバルな視点を持った人材が求められます。今後、鹿児島にも多くの外国人が訪れるようになりますが、十分なおもてなしをするためには異国の文化・風習・言語等に興味と知見を持ち、同時に自らの文化や伝統に誇りを持つ人材が求められます。これらは座学で習得するものではないため弊社ではOJT (On-the-Job Training) で対応しています。

また、組合の研修事業等を活用した人材育成にも取り組んでおります。

### 【情報発信について】

弊社の営業スタイルは、一人ひとりを大切にをモットーに、お客様個人又は団体のニーズに合わせた提案を行うことで信頼を得てまいりました。情報発信手段としてホームページも作成しておりますが、細やかなニーズへの対応には限界があることから、必要な方に必要な情報を伝える“One to One”の情報発信を重視しております。これからも、情報をタイムリーに発信し、多様な旅の魅力を発信していきたいと考えております。

## 【今後の方向性】

地方創生をめざす政策により、観光で地域経済を再生するための支援体制が整ってきており、着地型観光で地域を元気にできる願ってもないチャンスです。弊社では着地型旅行商品を通じて、地域の伝統芸能や特産品の良さに触れたいお客様と地域資源を有する地域をつなぎ、旅の魅力を多くの方に体感していただき、同時にその地域で頑張っている人や組織をサポートしていきたいと考えております。

さらに、弊社の強みであるイベント・コンベンション等においても着地型旅行の先駆者として「楽しくなければ旅ではない」の考えのもと、魅力あるプランの提案に努めてまいります。

## 【組合理事長として】

現在、鹿児島県旅行業協同組合の理事長を拝命しております。

組合商品「魅旅（みたび）」は、鹿児島県及び各市町村の理解と協力により成長してまいりました。これからも、地域の関連団体や行政との連携を強め、着地型旅行商品の開発・販売を通じて地域振興に貢献したいと考えております。取り組むべき課題は山積しておりますが、組合員と力を合わせ旅行業界の発展のため全力で取り組んでまいります。

また、来年3月17日、18日には鹿児島アリーナにおいて、「国内観光活性化フォーラム」及び「地旅博覧会」を開催いたします。全国から旅行・観光関係者が集う業界最大級のイベントで、参加者目標は1万5千人です。鹿児島の魅力を発信するため、魅旅のプログラムをさらにパワーアップした企画を検討しております。例えば食に関しては県内各地の商店街グルメグランプリ出展者やご当地グルメを招致し、食の魅力を参加者の脳裏に刻んでいただき、その後の情報発信につなげてまいります。今フォーラムを機に県内のマイナーな地域や特産品がブレイクすることを願っております。もちろん一般の方もご来場いただけますので、各地の食と特産品を楽しみに是非お越しください。

## 【最後に一言】

弊社では旅を通じ、かごしまの魅力を一人でも多くの方に感じていただけるよう努力してまいります。旅やコンベンションのことならお気軽にご相談ください。

### 《アローツーリスト株式会社》

- ◇設立 昭和57年6月4日
- ◇資本金 1,000万円
- ◇事業概要 旅行商品の企画・販売、旅行チケットの手配
- ◇代表者 代表取締役 中間 幹夫
- ◇所在地 〒892-0815 鹿児島市易居町2-9 インカムビル2階
- ◇連絡先 TEL 099-226-6000 FAX 099-226-7031
- ◇URL <http://arrow-tourist.jp/>

### 《鹿児島県旅行業協同組合》

- ◇所在地 〒892-0816 鹿児島市山下町17-5
- ◇連絡先 TEL 099-225-8901 FAX 099-225-8761
- ◇URL <http://www.mitabi.net/>

— 組合員・組合役員講習会（中央会創立 60 周年記念事業） —

## ●「組合制度が果たしてきた役割と今後の展望」をテーマに講習会開催

10月14日、鹿児島市の「城山観光ホテル」で、組合員・組合役員講習会を開催した。組合研究の第一人者である明治大学政治経済学部の森下正教授が、「組合制度が果たしてきた役割と今後の展望」と題し講演した。

森下氏は「組合のメリットは加入していれば享受できるのではなく、積極的に事業に参画することで得られる。組合の繋がり力が他の連携組織体より強いのは、明確な理念と目的があるからである。調査によると組合加入の目的は、人脈拡大、情報収集、コストダウン、新分野関連対応などが上位を占めるが、最近では異業種連携による市場開拓、環境問題に対応した生産システム構築、多品種少量生産と流通への対応など多様化している。組合には現状を打破する課題解決、経営環境の抜本的改善、新商品・サービス開発等の取り組みが求められる。」と述べ、組合及び組合員が一体となり中長期的なビジョンのもと継続的に事業を実施していくことの大切さを強調した。

また、講習会終了後に、森下氏を囲み懇談会を開催した。

※懇談会の詳細は、記念式典当日（12月7日）の南日本新聞朝刊に掲載される予定です。



— 小企業者組織化特別講習会 —

## ●「日本一小さい航空会社 倒産寸前からの再生物語」をテーマに講習会開催

10月2日、鹿児島市の「アーバンポートホテル鹿児島」で、小企業者組織化特別講習会を開催し、天草エアライン株式会社前社長の奥島透氏が「日本一小さい航空会社 倒産寸前からの再生物語」と題し講演した。

講師は、日本航空株式会社に入社、熊本支店長や関連会社社長等を歴任した後、同社社長に就任した。同社は地元の期待を背負い第三セクターとして設立されたが、不況や運休が多いとの風評被害等から乗客数が伸びず、加えて整備費の増大もあり、奥島氏の社長就任時には4億円を超える赤字を抱えていた。

奥島氏は経営改善に着手、手始めに社長室を撤去し、機体磨きや雑用を自ら率先して行った。社員とコミュニケーションの機会を増やし、整備補助金を活用することで予防整備や安全対策の徹底に取り組んだ。また、移動手段ではなく「乗ることを目的とする」航空会社を目指し、親子イルカの機体外装や手作り機内誌等、親近感のあるサービス提供に努めた。こうした取り組みがマスコミに取り上げられるようになり、乗客数も回復し、来期は黒字転換を見込んでいる。最後に講師は小企業の経営においては、①人心の掌握、②業務内容の掌握、③お金の掌握、④攻めの経営、⑤社員を大事にすることを心がけることの大切さを説き、締めくくった。



## — 地域資源振興研究会 —

## ● 「鹿児島県産農産物を使用したギフト用和菓子づくり」をテーマに研究会開催

10月8日、鹿児島市の「株式会社丸菱鹿児島営業所」で、鹿児島県菓子工業組合を対象に地域資源振興研究会を開催した。

日本菓子専門学校和菓子科課長の森山智宏氏を講師に「鹿児島県産農産物を使用したギフト用和菓子づくり」をテーマに和菓子創作の留意点や技術面に関する研究を行った。森山氏は和菓子を創作する際には、素材の味や食感を活かすこと、香りを活かすことも大切であること、作りたい和菓子ではなく消費者ニーズを捉えた商品開発を行うこと、ギフト用は見た目や大きさも重要であること、農家と連携して商品開発をしていくこと等をポイントにあげ、その後、6種類の和菓子の製作実技を行い技術的な留意点について説明した。



続いて、農産物を素材に使用する際の課題や技術等に関する意見交換を行い、今後の県産農産物を活用したギフト用和菓子開発の可能性について研究した。

## — 組合青年部研究会 —

## ● 「空想科学的印刷の未来」をテーマに研究会開催

10月24日、鹿児島市の「城山観光ホテル」で、鹿児島県印刷工業組合青年部黎明さつまを対象に印刷業界が抱える課題の解決策について研究会を開催した。

有限会社空想科学研究所代表取締役の柳田理科雄氏を講師に「空想科学的印刷の未来」をテーマに今後の印刷に関する研究を行った。柳田氏は出版を通じて印刷業界に精通しており「不況による需要の鈍化、それに伴う競合の激化、そして何よりIT革命による紙需要の低下が印刷業界が抱える問題である。スマートフォンやタブレットを一人一



台持つようになり、本や教科書、雑誌等は、紙ではなく画面上で読むものとなった。電車やバスで本を読む人が少なくなり、スマホばかり見つめている。印刷業界においては、紙媒体である本が読まれなくなった今だからこそ、子供たちに本の良さを広め、印刷の仕事を知ってもらうことが重要である。」と現状と課題を述べた。続いて、印刷業界が抱える課題等の解決策について意見交換を行い、厳しい状況を打破するため、本業の「印刷+α」の多角化を進める必要性について、また、競合他社にない独自の付加価値でクライアントとのつながりを深めていくことについて研究した。最後に柳田氏が「今後はWebを利用した通販型印刷業者による低価格競争が進むが、印刷業界は生き残りのため独自の発展・成長を模索する必要がある。印刷の未来を拓くためには、印刷業、本を書く者、出版、製本の各業界関係者が連携し、力を合わせて取り組む必要がある。」と述べた。

— 中央会青年部会 —

## ● 祝「鹿児島県中小企業団体中央会青年部会 創立40周年記念式典」開催

10月21日、鹿児島市「城山観光ホテル」において、鹿児島県中小企業団体中央会青年部会（有川裕幸会長）の創立40周年記念式典が、来賓及び会員関係者多数参加のもと盛大に開催された。



有川裕幸会長

冒頭、有川会長が「創立40周年を契機に、次の50周年に向けて、さらなる飛躍と発展を目指して力を合わせて挑戦を続けていきたい。」と挨拶を行った。

続いて、鹿児島県商工労働水産部 吉原芳文次長、鹿児島市経済局 南勝之局長、鹿児島県中小企業団体中央会 小正芳史会長から、お祝いの言葉が寄せられた。



上山泰寛氏

記念講演は、講師の全国中小企業団体青年中央会直前会長（宮崎県中小企業団体中央会青年部顧問）上山泰寛氏が、「青年部が果たすべき役割と期待」をテーマに講演した。

引き続き、上山氏をコーディネーター、初代会長の谷川洋造氏、第7代会長の岩重昌勝氏、第8代会長の櫛山幸男氏及び有川会長をパネリストに「原点への回帰！！～常に進化し、挑戦し続ける青年部会～」をテーマにパネルディスカッションを開催した。

また、表彰式では、優良組合青年部5組と功労者3名が表彰された。

### ■ 優良組合青年部

- ・ 鹿児島県川辺仏壇協同組合 青年部会
- ・ 鹿児島県環境整備事業協同組合 青年部会
- ・ 協同組合鹿児島県鉄構工業会 青年部会
- ・ 鹿児島県生コンクリート工業組合 青年部
- ・ 一般社団法人鹿児島県冷凍空調工業保安協会 青年部会

### ■ 功労者

- ・ 櫛山幸男氏、山下猛宏氏、梅井健一郎氏



祝賀会は、「鼓工房・粋」によるオープニングアトラクションの後、奥太志副会長の挨拶、九州ブロック中小企業青年中央会会長（沖縄県中小企業青年中央会会長）石川誠司氏の乾杯で開宴した。

また、九州・沖縄各県の青年部会長が全員出席し、「九州は一つ」の結束を一段と強めた。



## 第 20 回 「同一組合員企業内の取締役による 理事の交替手続き」について



本組合の理事に選出されていた A 社の **B 取締役** が退任した後、A 社の **C 取締役** を手続きを踏まずに理事に就任させることは可能でしょうか。



### はい！お答えします！

- 結論から言いますと、手続きを踏まずに理事に就任させることはできません。
- ◇ 理事の選出は、中小企業等協同組合法第 35 条第 3 項の規定により、必ず総会において選挙又は選任することとなっています。
- ◇ 理事は、組合と個人の委任契約であり、公平な立場から組合の業務執行の決定等に参画しなければなりません。
- ◇ 以上の理由から、辞任した理事を補充するために、組合員たる同一法人の取締役等が手続きを踏まずに交替することは、法的に不可能です。



詳しいことは、中央会の担当指導員に聞いてほしいぶ～

## 中央会補助金活用のご案内

中央会では、組合活性化の支援、新分野進出、経営革新、ものづくりの支援をはじめ、IT化の推進、法律・税務や労働等に関する問題への対処、環境・リサイクル問題への対応など、業界を取り巻く様々な課題の解決に向けた支援を行っています。

組合で研修会等を実施される際は、中央会補助事業の活用を是非ご検討下さい！

### 1. 研修会等に参加して資質の向上を図りたい！

組合運営の向上や中小企業の経営力の強化に役立つ研修会・研究会を開催します。

46 ページを参照

### 2. 地域資源活用、IT促進、環境対応、事業再構築等に取り組みたい！

業界の課題解決や新たな事業に挑戦する組合等を対象に研修会・研究会を実施し支援します。

46 ページを参照

### 3. 活気のあるまちづくり・儲かる事業所にしたい！

商業・サービス業及び商店街の活性化や組織化に取り組む組合等を対象に研修会を実施し支援します。

47 ページを参照

### 4. 小企業者の経営基盤を強化したい！

小企業者で組織された組合が経営基盤強化のために実施する調査や研究会等に対し助成します。

48 ページを参照

### 5. 後継者の育成及び青年部の活性化に取り組みたい！

業界の将来を担う後継者の育成及び青年部の活性化に取り組む組合を対象に研究会を実施し支援します。

48 ページを参照

## 1. 資質向上のための研修会・研究会を開催

### (1) 組合等運営活性化支援事業

#### 【事業の内容】

組合を取り巻く環境変化への対応、管理・運営面の強化、人材育成等に関する研究会や講習会を実施します。

#### 【過去の事例】

経済講演会、自治監査講習会、決算講習会、事務局代表者講習会、女性キャリアアップセミナー、創業セミナー等を開催した。

#### 【実施成果】

経営及び組合運営に有益な知識や考え方を学び、事業発展のヒントを得た。

※この事業は、全ての組合等を対象に中央会が開催します。開催の都度案内致しますので是非ご参加下さい。



## 2. 地域資源振興・IT化推進・新分野強化等に関する研究会等を開催

補助率：総事業費の2/3

### (1) 経営強化・運営改善

#### 【事業の内容】

経営強化・組合運営改善に取り組む組合を対象に研究会を開催します。

#### 【過去の事例】

建設関連の組合が事業承継対策に関する研究会を開催した。

#### 【実施成果】

計画の策定等、効果的な事業承継対策の進め方に関する理解が深まった。



### (2) 地域資源振興

#### 【事業の内容】

地域資源の活用により、新事業創出、研究開発、マーケティング等に取り組む組合を対象に研究会を開催します。

#### 【過去の事例】

大島紬の組合が県外の先進組合事例から産地組合の活性化に関する研究会を開催した。

#### 【実施成果】

地域資源の産地として販路開拓のヒントを得た。

### (3) 環境・リサイクル・その他

#### 【事業の内容】

環境・リサイクルやその他の課題への対応に取り組む組合を対象に研究会を開催します。

#### 【過去の事例】

建築業の組合が間伐と山林整備に関する研究会を開催した。

#### 【実施成果】

山林資源の有効活用に関する制度や技術について、今後の取り組みのヒントを得た。





#### (4) 事業再構築支援

【事業内容】

変化に対応するため組合事業の再構築に取り組む組合を対象に研究会を開催します。

【事例】

共同購買の取扱品目や事業の進め方に関する研究会を開催した。

【成果】

共同事業の進め方を再構築することで、事業を活発化させることができた。

#### (5) 異業種間連携・組合間連携支援

【事業内容】

異業種間・組合間の連携で、課題解決に取り組む組合等を対象に研修会を開催します。

【事例】

- ・管工事の組合が連携し、BCPに関する研修会を開催した。
- ・地域振興に取り組む異業種が連携し、着地型観光サービスに関する研修会を開催した。



【成果】

インフラ整備や地域興しに取り組む際のポイントや課題への理解が深まった。

#### (6) 情報関連

【事業内容】

情報化に取り組む組合を支援するため、ネットワーク構築やマイナンバー制度等に関する研修会の開催や情報処理技術者の資格を持つ中央会指導員による現地支援を行います。

【事例】

- ・IT活用、セキュリティ向上、マイナンバー制度等をテーマとした研修会を開催した。
- ・ソフトの更新や会計システム等の導入について中央会指導員が現地支援を実施した。

【成果】

- ・情報セキュリティの重要性について理解が深まった。
- ・各種ソフトの更新を円滑に進めることができた。

### 3. 商業・サービス業を対象に研修会を開催

補助率：総事業費の2/3

#### (1) 組合等連携強化指導事業（商業・サービス業）

【事業内容】

活性化に取り組む商業・サービス業の組合及び組織化を検討する通り会等を対象に研修会を開催します。

【事例】

商店街通り会が、組織化を検討するため研修会を開催した。

【成果】

組織化のメリットを理解し、運営面の不安や疑問点が解消した。

## 4. 小企業者組合を対象に講習会の実施を支援

補助率：総事業費の2/3

### 【対象となる組合】

構成員の4分の3以上が小企業者(※)の組合

### 【小企業者】

常時使用する従業員の数が5人（商業又はサービス業を主たる事業とする事業者については2人）以下の会社及び個人

### (1) 小企業者組織化特別講習会

#### 【事業概要】

小企業者で構成する組合が、組合運営や組合員の経営向上のために開催する講習会に対して助成します。

#### 【事例】

女性顧客を増やす方策、地域特産品を活かした商品開発の手法、経営者に不可欠な会計知識等、経営向上のための講習会を開催した。

#### 【成果】

女性顧客から選ばれる事業所になるヒントを得た。  
機能性豊かな新商品開発につながる技術を研究した。



## 5. 後継者育成のための研究会等を開催

補助率：総事業費の2/3

### (1) 組合等運営活性化支援事業（組合青年部・後継者）

#### 【事業内容】

業界の次代を担う後継者育成に取り組む組合を対象に研究会を開催します。

#### 【事例】

- ・建設業の組合が業界の今後を検討する研究会を開催した。
- ・労務管理を研究するための研究会を開催した。

#### 【成果】

- ・今後の課題と取り組むべき方向性について検討することができた。
- ・雇用計画と労務管理について不可欠な知識を得ることができた。

補助金の活用を希望される組合は、お気軽に電話にてご相談ください。

なお、条件や申し込み状況次第では次年度の対象とするか、お受けできない場合もございますのでご了承ください。

### 【お申込み・お問い合わせ】

鹿児島県中小企業団体中央会 TEL 099-222-9258

# 鹿児島県内の業界情報

(平成27年9月情報連絡員報告)

## 製造業

### 味噌醤油製造業

低調な業況は変わっていない。行楽シーズンを迎えたと言われているが、外食も総じて良くなく、糸口が見出せない状態が続いている。

### 酒類製造業

(平成27年8月分データ 単位kℓ・%)			
区分	H26.8	H27.8	前年同月比
製成数量	6,055.0	5,214.9	86.1
移出数量	県内課税	4,944.9	3,731.5
	県外課税	4,103.6	4,912.7
	県外未納税	2,822.7	2,512.9
在庫数量	210,568.3	221,599.3	105.2

### 漬物製造業

一般野菜の高騰もあり、若干消費は上向いた。

### 蒲鉾製造業

シルバーウィークは天候に恵まれて、旅行客も多く土産品もよく売れた。しかし、日配品は大手の安売り商品が売れ、県産品は少し落ち込んだ。全体でマイナス1%である。また、原材料のスケソウは高値を推移している。同月比C級で50円～90円値上がりした。エソ等の近海の鮮魚は昨年と同じくらいの相場である。

### 鯉節製造業

原料生値は昨年(150～160円/4.5kg)より20円ぐらい高値で推移している。外国人技能実習生の相次ぐ途中帰国によって、少しずつ生産量に支障が出てきた。

### 菓子製造業

天候不良もあり、客足は伸びていない。新商品開発等、工夫を凝らす店もあり、頑張っているが厳しい状況は続いている。

### 茶製造業

共販実績は前年度同月比売上高90%(9月上売98%)

### 本場大島紬織物製造業

平成27年9月の生産実績は409反であった。平成26年度9月は454反であり、前年同月比はマイナス45反である。

### 木材・木製品製造業

原木丸太の入荷が激増したものの、価格は反発して下げに転じた。一方、製材製品は需要期の秋になっても、取引は量・価格共に頭打ち状態にあつて安値探しの当用買いで終始し、先行き不透明でしばらくは不安定な展開になりそう。記念市の屋久杉は、品薄もあつて原木確保のために強気で旺盛な市況で完売となった。

### 木材・木製品製造業

住宅着工戸数は全国的には回復傾向にあることから、本県もそろそろとの声が多い。しかしながら、業界第一線の声は今ひとつ盛り上がり欠けている。人口減少時代に今後求められるのは木材の総合利用が不可欠、非住宅部門への需要ほり起こしが大事になってくるであろう。

### 生コンクリート製造業

出荷量は131,464立米(対前年比82.8%)であった。特に減少した地域は、串木野、川薩、宮之城、出水、始良伊佐、大隅、奄美大島、奄美南部、沖永良部、喜界島である。特に増加した地域は、南薩、種子島、屋久島、甕島である。官公需は56,677立米(対前年同月比61.0%)、民需は74,787立米(対前年同月比113.4%)であった。民需は対前年同月比が今年度初めて100%を上回ったが、官公需は50%台から60%台が続いており、今後が不透明である。

### コンクリート製品製造業

9月度の出荷トン数は8,434トン、前年同月比は75.5%となった。南薩地区、熊毛地区を除く地区にて減少しており、特に鹿児島地区は前年同月比50%となった。9月度の受注も少なく業界の厳しい状況が続いている。

### 機械金属工業

変化の「兆し」とまでは言えないが、来年以降の大型物件の話がチラホラとささやかれている。

### 印刷業

9月は印刷の月と謳っている月だが、このところ業績の悪化を憂う声が多々聞かれる。原因は様々ではあるが、印刷に欠かせない用紙価格の高騰が大きな要因を占めている。連合会から要望書を出し、交渉が続けられている。

## 非製造業

### 卸売業

団地内のガラス器卸売業者が破産準備。夏前の天候不順で売上が減少し、以降も回復に至らなかったことが要因である。一昨年には同様に陶器卸業者が廃業している。食器類等をはじめ全般的に需要が伸びない傾向である。依然として繊維品卸業者は苦戦が続いており、社屋の売却と移転を検討する企業もある。円安による輸入コストの上昇と大型量販店への集中及び売価転嫁困難が背景にある。補助金や助成優遇策の継続、業種によっては不況対策や長期安定資金の斡旋を切望する。

**燃料小売業 (LP ガス)**

9月に船積される輸入原料価格は、315ドルで約11年ぶりの安値になった。中国の景気減速等により、在庫がだぶついたのも一因になっている。それに伴って小売価格も低下する状態が継続している。しばらくは情勢が大きく変化する要素がないため、同様の状況が続くと思われる。

**中古自動車販売業**

依然として厳しい状況である。新車の売れ行きが鈍く、玉不足が続いており、価格が高騰している。仕入れも困難である。秋商戦に期待したい。

**青果小売業**

前月比は104.7%、前年同月比は113.5%であった。

**農業機械小売業**

TPP交渉もようやく妥結され、農業分野が期待されている向きもある。国内では米余りで飼料米に補助金が充てられる状況であるが、小手先の問題打開策にならないでほしい。

**石油販売業**

原油は供給過剰と米中の経済指標の動向から価格は下げ基調に推移した。一方、小売業界はシルバーウィークが天候に恵まれたこともあり、昨年を若干上回った模様である。しかし、その間の人手不足が顕在化しており、運営上の大きな問題となりつつある。

**商店街 (霧島市)**

9月はシルバーウィークもあり日中の人通りや車の通行も少なく感じた。来月から霧島市では霧島市花火大会、こくぶ通り会連合会が主催する八坂神社秋祭り、きりしまハッピーハロウィン、日本ジオパーク全国大会など、通り会としてもこれらの事業へ協力して町中への誘客を行う。

**商店街 (薩摩川内市)**

77年の歴史ある時計・宝石店が閉店する。商店街は厳しい状況にある。

**商店街 (鹿児島市/天文館地区)**

夏休みの反動もあって、全体的に売上は減少した(もともと毎年のことであるため、前年同月との比較では変わらない様子)。商品券(とくとく商品券)の効果も今はほとんどない様子である。

**サービス業 (旅館業/県内)**

9月の中旬ぐらいまでは低調に推移していたが、今年は長期の連休となったシルバーウィークの期間中が昨年よりも好調だったため、9月全体で見ればほぼ前年同月並みの売上になっている様である。

**美容業**

景気は上向いておらず、消費者の足は美容室から遠くなっているようだ。売上減少の要因で単価の高いパーマの比率が落ちているのも、やはり必需

品の値上がりに伴い、消費者は美容室の利用を控えたり、低料金思考を強めているためと思われる。

**旅行業**

秋の行楽シーズンを迎えた。今月はシルバーウィークがあったが海外旅行は伸び悩み、国内旅行は団体客の増加が見込まれ九州内の宿泊が増えた。相変わらず連休は個人客(ファミリー層・OL層)の東京TDL・大阪USJ及び近場の宿泊の申込みが多かった。相対的に旅行客は増加したが、販売額は事業所によってばらつきがあった。前年同月比は108.3%。9月末に1社の廃業を予定しており、会員数は74社になる。

**建築設計監理業**

前回、「てんでこ舞いの昨今でうれしい悲鳴」と報告したが、鹿児島国体を見据えた関連施設整備の発注も予定されており、ますます多忙を極めそうである。今年度こそは良い締めくくりとしたい。

**自動車分解整備・車体整備業**

月末あたりは少し忙しい日があったが、今年は連休が続いたため、実働日数が少なく伸びが見られなかった。また、9月1日から前照灯の下向き検査が実施され不合格になる車が多く検査場の流れが悪かった。

**電気工事業**

太陽光発電設備は以前のような状況ではないが、まだ継続的に物件はあるようだ。民間工事も平均的な状況であり、官庁物件も発注があるが以前と比べると発注金額が厳しくなってきた。

**建設業 (鹿児島市)**

特に今年度6～8月の三カ月間は公共事業の発注が対前年同期と比べて少なく、組合員は厳しい経営環境下であり、当組合としても各発注機関に早期発注を陳情しているところです。

**建設業 (曾於市)**

10月に入り建築等の工事は多く発注されたが、土木の方はまだ少ないようである。

**貨物自動車運送業**

9月に入り市況が下がり、軽油価格は低下傾向であった。また、秋の全国交通安全運動が実施され、各運送会社は交差点事故防止など最重点項目として徹底に取り組んだ。

**運輸業 (個人タクシー)**

昼間から夜にかけて利用客が減少してきている。

**運輸・倉庫業**

県内配送はシルバーウィークで稼働数が減り、物量も低調であった。長距離輸送は下りの荷物は多かったが、全体として前年並みの実績であった。燃料価格は安定した価格で推移している。

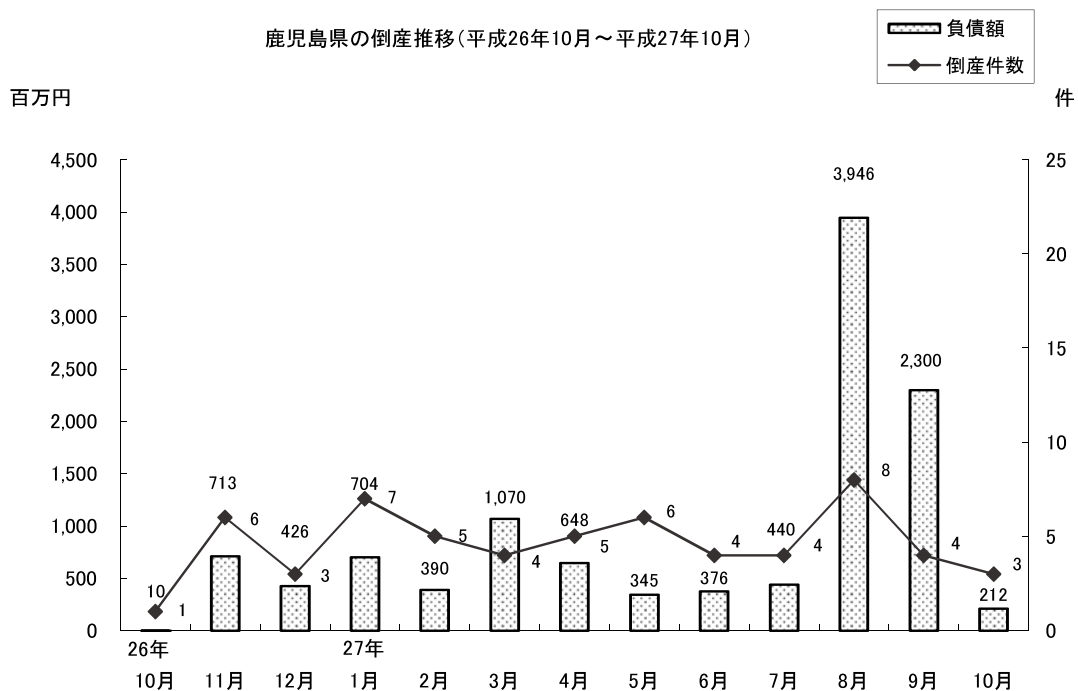
## 平成 27 年 10 月 鹿児島県内企業倒産概況

(負債額 1,000 万円以上・法的整理のみ)

(株)帝国データバンク 鹿児島支店

**件数 3 件 負債総額 2 億 1,200 万円**

〔件数〕前年同月比 2 件増 〔負債総額〕前年同月比 2,020%増



**【ポイント】** 倒産件数は 2015 年に入り最も少ない 3 件、負債総額も同様に 2 億 1,200 万円と最少であった

- ・ 10 月の倒産件数は前月より 1 件少ない 3 件であり、これは平成 26 年 12 月以来のこと。負債額についても 10 億円超の大型倒産はなく、3 件の内 2 件は負債額 1 億円未満であり今年に入り最も少ない負債総額となった。
- ・ 地区別でみると鹿児島市が 1 件、指宿市が 1 件、奄美市が 1 件であった。
- ・ 業種別でみると建設業 2 件、野菜作農業が 1 件であった。
- ・ 倒産の態様で見ると 3 件全てが破産であった。

**【各要因別】**

- ・ 業種別では、「建設業」 2 件、「その他」 1 件。
- ・ 主因別では、「販売不振」 3 件。
- ・ 資本金では、「100 万円以上 1,000 万円未満」 3 件。
- ・ 負債額では、「1,000 万円以上 5,000 万円未満」 1 件、「5,000 万円以上 1 億円未満」 1 件、「1 億円以上 5 億円未満」 1 件。
- ・ 態様別では、「破産」 3 件。
- ・ 業歴別では、「5 年以上 10 年未満」 1 件、「20 年以上 30 年未満」 1 件、「30 年以上」 1 件。
- ・ 地域別では、「鹿児島市」 1 件、「南薩地区」 1 件、「大島郡」 1 件。

## 【今後の見通し】

10月の倒産件数は9月の4件から1件減となる3件であった。

大型倒産の発生もなく負債総額は平成27年に入り最少となる2億1,200万円であり、件数・負債総額ともに減少する形となった。

倒産の態様でみると3件全てが破産であるが、〇(有)に関しては、少なくとも1年以上営業実績はなく、債権者である第三者からの申立による破産であった。

10月だけの結果からみると、倒産件数・負債総額ともに沈静化の形にはなっているが、1月から10月迄の累計で見ると倒産件数は50件であり、前年同期を5件しか下回っていない

もので、景気回復によって倒産件数自体が減少傾向になっているとは言い難い。

平成27年に入り負債総額・件数ともに前年を下回る傾向があったものの、8月以降再度増加に転じる状況にあった。10月単月だけを見ると、沈静化との見方もできるが、今後年末の資金需要に対応できない体力を消耗した企業及び、受注不振等で事業規模を縮小あるいは一時的に休業している企業が倒産に至る可能性も十分に孕んでおり、10月以降も落ち着いた動きを見せると判断するのは時期尚早であろう。

## 平成27年10月企業倒産状況（法的整理のみ）

企業名	業種	負債総額 (百万円)	態様
(有) Y	建築工事	122	破産
〇(有)	わさび栽培、同加工品等販売	40	破産
(株) H	土木工事	50	破産
		4件	4億4,000万円

## 経営セーフティ共済

「経営セーフティ共済」は、中小企業倒産防止共済制度の愛称です。

取引先の突然の倒産!まさかのときの  
資金調達先は準備していますか?  
売掛金が回収できなくなった。資金ショートで連鎖倒産してしまう...

1

加入し、掛金を積み立てておけば...

回収困難となった売掛金(被害額)相当の資金を調達できます。(最高8,000万円まで)

●共済制度の詳細な内容は、パンフレット等を必ずご覧ください。

2

「取引先の倒産」と「商取引の事実」の確認で迅速に貸付実行。

3

当面の資金繰りに役立ち、自社と社員を守れます。

自社のリスクマネジメントのひとつとしてお考えください。

掛金は損金もしくは必要経費に算入できます

経営セーフティ共済

検索

制度の運営機関：独立行政法人 中小企業基盤整備機構 TEL 050-5541-7171 (共済相談室) URL <http://www.smrj.go.jp/kyosai/index.html>

# 中央会関連主要行事予定

中央会創立 60 周年記念式典・祝賀会

平成 27 年 12 月	
6 日(日) 10:00	中小企業組合検定試験
16 日(水) 14:00	創業補助金事業化状況等説明会 鹿児島市「ホテルレクストン鹿児島」
17 日(木) 14:30	創業補助金事業化状況等説明会 奄美市「ホテルウエストコート奄美」
平成 28 年 1 月	
5 日(火) 10:00	中央会年始会 鹿児島市「鹿児島サンロイヤルホテル」
14 日(木) 14:00	労務管理とリスク対策セミナー メンタルヘルスと労務管理の視点からみた セクハラ・パワハラのリスクマネジメント 鹿児島市「鹿児島サンロイヤルホテル」

鹿児島県中央会は、昭和 30 年 12 月 8 日の設立以来、組織化を通じた中小企業の振興・発展を推進し、本年度で創立 60 周年を迎えることとなりました。つきましては下記のとおり、記念式典並びに祝賀会を開催いたします。

当日は、株式会社ジャパネットたかたの高田元社長の記念講演もございます。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

■日 時 平成 27 年 12 月 7 日(月)

記念式典 14:00~15:30

記念講演 15:30~17:30

株式会社ジャパネットたかた

元代表取締役社長 高田 明 氏

「夢持ち続け 日々精進」

祝賀会 17:40~

祝賀会会費 10,000 円

■場 所 城山観光ホテル

(鹿児島市新照院町 41-1)

【お問い合わせ】 総務企画課

表紙・本文中に登場する  
ぐりぶー&さくらとその子供達は  
鹿児島県の PR キャラクターです♪

©鹿児島県ぐりぶー・さくら#195



## 中小企業かごしま (平成 27 年度 活性化情報第 3 号)

発行人 鹿児島県中小企業団体中央会 会長 小正芳史  
〒892-0821 鹿児島市名山町 9 番 1 号 県産業会館 5 階  
TEL 099-222-9258 FAX 099-225-2904

HP <http://www.satsuma.or.jp/>

印刷所 株式会社イースト朝日